

本書の構成

本書をお読みにする前に

安全にお使いいただくための注意事項や、本書の表記について説明しています。必ずお読みください。

第1章 各部名称

各部の名称と働きについて説明しています。

第2章 ハードウェア

本パソコンをお使いになるうえで必要となる基本操作や基本事項を説明しています。

第3章 増設

本パソコンに取り付けられている（取り付け可能な）周辺機器について、基本的な取り扱いなどを説明しています。

第4章 BIOS

BIOS セットアップというプログラムについて説明しています。また、本パソコンのデータを守るためにパスワードを設定する方法について説明しています。なお、BIOS セットアップの仕様は、改善のため予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

第5章 技術情報

本パソコンの仕様などを記載しています。

目次

本書をお読みになる前に	5
本書の表記	8
リサイクルについて	11
第1章 各部名称	
1 各部の名称と働き	14
パソコン本体前面	14
パソコン本体背面	17
パソコン本体内部	19
マザーボード	20
第2章 ハードウェア	
1 マウスについて	24
マウスの使い方	24
2 キーボードについて	26
3 CDについて	28
取り扱い上の注意	28
CDをセットする／取り出す	29
4 フロッピーディスクについて	30
取り扱い上の注意	30
フロッピーディスクをセットする／取り出す	30
5 ハードディスクについて	32
注意事項	32
6 ハードウェアのお手入れ	33
パソコン本体のお手入れ	33
マウスのお手入れ	33
キーボードのお手入れ	34
CDのお手入れ	34
フロッピーディスクドライブのお手入れ	34
7 筐体のセキュリティ	36

第3章 増設

1 周辺機器を取り付ける前に	38
取り扱い上の注意	38
2 本体カバーを取り外す	40
本体カバーの取り外し方	40
3 メモリを取り付ける	44
メモリの取り付け場所	44
取り付けられるメモリ	45
メモリを取り付ける	46
4 拡張カードを取り付ける	49
拡張カードの取り付け場所	50
拡張カードを取り付ける	50
5 内蔵オプションを取り付ける	53
内蔵オプションの取り付け場所	53
注意事項	54
マスターとスレーブについて	54
内蔵ハードディスクを取り付ける	58
その他の内蔵オプションを取り付ける	63

第4章 BIOS

1 BIOS セットアップとは	70
2 BIOS セットアップの操作のしかた	71
BIOS セットアップを起動する	71
設定を変更する	72
各キーの役割	72
BIOS セットアップを終了する	73
3 メニュー詳細	74
Main メニュー	74
Advanced メニュー	79
Security メニュー	86
Power メニュー	90
Exit メニュー	92
System Information メニュー	94
4 BIOS のパスワード機能を使う	97
パスワードの種類	97
パスワードを忘れると	97
パスワードを設定する	98
パスワードを変更／削除する	100
5 BIOS が表示するメッセージ一覧	101
メッセージが表示されたときは	101
メッセージ一覧	101

第 5 章 技術情報

1 仕様一覧	106
本体仕様	106
LAN アダプタ仕様	107
サウンド仕様	107
グラフィック仕様	108
2 コネクタ仕様	109
索引	113

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくために

このマニュアルには、本パソコンを安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本パソコンをお使いになる前に、このマニュアルを熟読してください。特に、添付の『安全上のご注意』をよくお読みになり、理解されたうえで本パソコンをお使いください。また、『安全上のご注意』およびマニュアルは、本パソコンの使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

保証書について

- ・保証書は、必ず必要事項を記入し、内容をよくお読みください。その後、大切に保管してください。
- ・修理を依頼される場合には、必ず保証書をご用意ください。
- ・保証期間内に、正常な使用状態で故障した場合は、無料で修理いたします。
- ・保証期間内でも、保証書の提示がない場合や、天災あるいは無理な使用による故障の場合などには、有料での修理となります。ご注意ください（詳しくは、保証書をご覧ください）。
- ・修理後は、パソコンの内容が修理前とは異なり、ご購入時の状態や、何も入っていない状態になっている場合があります。大切なデータは、フロッピーディスクなどに複写して、保管しておいてください。
- ・本パソコンの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）の最低保有期間は、製造終了後6年間です。

保守修理サービスのご案内

弊社では、保守修理サービスとして、以下の「契約サービス」「スポット保守サービス」を用意しております。お客様のご希望、ご利用状況に合わせたサービスをお選びの上、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」またはご購入元にお申し込みください。

■契約サービス

お客様と契約に基づき、機器管理を行います。

保守サービス料金は月額定期保守料をお客様に負担していただきます。

料金は定額ですので、お客様の予算管理も容易です。

- ・定期保守サービス
トラブルを未然に防止するとともに、機器の機能維持を行うため、定期的に予防点検、整備調整作業を行います。万一の障害発生時には保守員がお客様に伺い、保守修理作業を実施いたします。業務にご利用の場合などで、機器の使用頻度の高いお客様に最適なサービスです。
- ・定額訪問修理サービス
万一のトラブルの際に、保守員がお客様に伺い、修理作業を実施いたします。
- ・定額点検サービス
トラブルを未然に防止するための定期点検のみを実施する契約サービスです。点検時の部品の交換、障害発生時の保守作業については別途有償とさせていただきます。

■スポット保守サービス

必要に応じてその都度利用していただく保守サービスです。

保守サービス料金は、サービス実施の都度、お客様に負担していただきます。

- ・スポット訪問修理サービス
お客様のご依頼により、保守員が修理にお伺いします。修理料金はその都度ご清算いただけます。なお、保証書の無料修理規定による保証期間中の修理費用は無償ですが、訪問に必要な費用は別途有償となります。
- ・スポット持込修理サービス
「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」またはご購入元にお持ち込みいただき、修理完了後に、お客様にお引き取りいただけます。経済的な費用で修理できます。
- ・スポット引取修理サービス
お客様のご依頼により、弊社指定の運送業者がお客様をご訪問させていただき、機器を回収いたします。修理完了後に、お客様までご返送させていただくサービスです。なお、保証書の無料修理規定による保証期間中の修理費用は無償ですが、往復の運送に必要な費用は別途有償となります。
- ・スポット点検サービス
お客様のご依頼により、保守員がお客様を訪問させていただき、機器を整備・点検します。機器の長期間の使用や移設作業後に点検を行いたい場合などにご利用いただけます。なお、点検時に部品交換などが必要と判断された場合は別途有償とさせていただきます。
※アフターサービスなどについて、ご質問などがございましたら、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」またはご購入元へお問い合わせください。

本装置は、社団法人電子情報技術産業協会のパソコン業界基準（PC-11-1988）に適合しております。

注意

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるように要求されることがあります。

当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの基準に適合していると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化促進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えるための機能を備えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品は、コンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリ及び複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク（）は、参加各国の間で統一されています。

ただし、OS（Windows NT等）の制限上、本製品の省エネルギー機能が使用できない場合もあります。

本製品のハイセイフティ用途での使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用などの一般的な用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。

お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。

ハイセイフティ用途とは、以下の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。

- ・原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など

本製品には、有寿命部品（CRT、液晶ディスプレイ、ハードディスクなど）が含まれており、長時間連続で使用した場合、早期の部品交換が必要になります。

データのバックアップについて

本装置をお使いになる上で、データ（アプリケーションも含む）の保全については、お客様ご自身の責任においてバックアップなどの必要な手段をお取りください。また、修理を依頼される場合も、事前にお客様ご自身でバックアップを行ってください。データの消去、変更については、弊社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

このパソコンは、国内での使用を前提に作られています。海外での使用につきましては、お客様の責任で行っていただくようお願いいたします。

本装置は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお勧めします。（社団法人電子情報技術産業協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示）

このパソコンには、“外国為替及び外国貿易法”に基づく特定貨物が含まれています。したがって、このパソコンを輸出する場合には、同法に基づく許可が必要となる場合があります。

使用許諾契約書

富士通株式会社（以下弊社といいます）では、本パソコンにインストール、もしくは添付されているソフトウェア（以下本ソフトウェアといいます）をご使用いただく権利をお客様に対して許諾するにあたり、下記「ソフトウェアの使用条件」にご同意いただくことを使用の条件とさせていただきます。

なお、お客様が本ソフトウェアのご使用を開始された時点で、本契約にご同意いただいたものいたしますので、本ソフトウェアをご使用いただく前に必ず下記「ソフトウェアの使用条件」をお読みいただきますようお願い申し上げます。ただし、本ソフトウェアのうちの一部ソフトウェアに別途の「使用条件」もしくは「使用許諾契約書」等が、添付されている場合は、本契約に優先して適用されますので、ご注意ください。

ソフトウェアの使用条件

1. 本ソフトウェアの使用および著作権
お客様は、本ソフトウェアを、日本国内において本パソコンでのみ使用できます。なお、お客様は本パソコンのご購入により、本ソフトウェアの使用権のみを得るものであり、本ソフトウェアの著作権は引き続き弊社または開発元である第三者に帰属するものとします。
2. バックアップ
お客様は、本ソフトウェアにつきまして、1部の予備用（バックアップ）媒体を作成することができます。
3. 本ソフトウェアの別ソフトウェアへの組み込み
本ソフトウェアが、別のソフトウェアに組み込んで使用されることを予定した製品である場合には、お客様はマニュアル等記載の要領に従って、本ソフトウェアの全部または一部を別のソフトウェアに組み込んで使用することができます。
4. 複製
 - (1) 本ソフトウェアの複製は、上記「2.」および「3.」の場合に限定されるものとします。
本ソフトウェアが組み込まれた別のソフトウェアについては、マニュアル等で弊社が複製を許諾していない限り、予備用（バックアップ）媒体以外には複製は行わないでください。
ただし、本ソフトウェアに複製防止処理がほどこしてある場合には、複製できません。
 - (2) 前号によりお客様が本ソフトウェアを複製する場合、本ソフトウェアに付されている著作権表示を、変更、削除、隠蔽等しないでください。
5. 第三者への譲渡
お客様が本ソフトウェア（本パソコンに添付されている媒体、マニュアルならびに予備用バックアップ媒体を含みます）を第三者へ譲渡する場合には、本ソフトウェアがインストールされたパソコンとともに本ソフトウェアのすべてを譲渡することとします。なお、お客様は、本パソコンに添付されている媒体を本パソコンとは別に第三者へ譲渡することはできません。
6. 改造等
お客様は、本ソフトウェアを改造したり、あるいは、逆コンパイル、逆アセンブルをとまなうリバースエンジニアリングを行うことはできません。
7. 保証の範囲
 - (1) 弊社は、本ソフトウェアとマニュアル等との不一致がある場合、本パソコンをご購入いただいた日から 90 日以内に限り、お申し出をいただければ当該不一致の修正に関して弊社が必要と判断した情報を提供いたします。
また、本ソフトウェアの記録媒体等に物理的な欠陥（破損等）がある場合、本パソコンをご購入いただいた日から1ヶ月以内に限り、不良品と良品との交換に応じるものとします。
 - (2) 弊社は、前号に基づき負担する責任以外の、本ソフトウェアの使用または使用不能から生じるいかなる損害（逸失利益、事業の中断、事業情報の喪失その他の金銭的損害を含みますが、これに限られないものとします）に関して、一切責任を負いません。たとえ、弊社がそのような損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。
 - (3) 本ソフトウェアに第三者が開発したソフトウェアが含まれている場合においても、第三者が開発したソフトウェアに関する保証は、弊社が行う上記（1）の範囲に限られ、開発元である第三者は本ソフトウェアに関する一切の保証を行いません。
8. ハイセイフティ
本ソフトウェアは、一般事務用、パーソナル用、家庭用などの一般的用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本ソフトウェアを使用しないものとします。ハイセイフティ用途とは、下記の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。

記

原子力核制御、航空機飛行制御、航空交通管制、大量輸送運行制御、生命維持、兵器発射制御など

富士通株式会社

マイクロソフト製品サービスパック

Microsoft® Windows® をご利用のお客様がより安定したシステムを運用していく上で、マイクロソフト社はサービスパックを提供しております（<http://www.microsoft.com/japan/>）。

お客様は、最新のサービスパックをご利用いただくことにより、その時点でマイクロソフト社が提供する Microsoft® Windows® にて最も安定したシステムを構築できます。

したがって、当社としては、最新のサービスパックをご利用いただくことを基本的に推奨いたします。

ただし、お客様の環境によっては、サービスパック適用により予期せぬ不具合が発生する場合がありますので、ご利用前にはサービスパックの Readme.txt を必ずご確認ください。

また、万一、インストールに失敗したことを考慮し、システムのバックアップを取ることを推奨いたします。

この製品の構成部品（マザーボード、CD-ROM、ハードディスク、フロッピーディスクドライブなど）には、微量の重金属（鉛、クロム）や化学物質（アンチモン）が含有されています。

本書の表記

■ 警告表示

本書では、いろいろな絵表示を使っています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	⊘で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 POINT	ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。必ずお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

■ コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy a: a:  
  ↑  ↑
```

- ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【space】キーを1回押してください。
また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。
- CD-ROM ドライブのドライブ名を、[CD-ROM ドライブ] で表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。

```
[CD-ROM ドライブ]:¥setup.exe
```

■ 画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。お使いの機種によって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

■ BIOS セットアップの表記

本文中の BIOS セットアップの設定手順において、各メニューやサブメニューまたは項目を、「-」（ハイフン）でつなげて記述する場合があります。

例：「Main」の「Boot Menu」の項目を「Enabled」に設定します。

↓

「Main」 - 「Boot Menu」 : Enabled

■ フロッピーディスクドライブ、CD-ROM ドライブ

フロッピーディスクドライブ、CD-ROM ドライブが搭載されていないモデルの場合、各ドライブが必要な操作では、別売の周辺機器を用意してください。使用できる周辺機器については、『システム構成図』をご覧ください。

周辺機器の使用方法については、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

■ お問い合わせ先／URL

本文中に記載されているお問い合わせ先や WWW の URL は 2001 年 11 月現在のものです。変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」へお問い合わせください（→『修理サービス網一覧表』）。

■ カスタムメイドオプション

本文中の説明は、すべて標準仕様にに基づいて記載されています。

そのため、カスタムメイドオプションを取り付けている場合、メモリ容量やハードディスク容量などの記載が異なります。ご了承ください。

■ 製品の呼び方

本文中の製品名称を、次のように略して表記します。

なお、本書ではお使いの OS 以外の情報もありますが、ご了承ください。

製品名称	本文中の表記		
Microsoft® Windows® XP Professional	Windows XP Professional	Windows XP	Windows ※
Microsoft® Windows® XP Home Edition	Windows XP Home Edition		
Microsoft® Windows® 2000 Professional	Windows 2000		
Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 4.0	Windows NT		
Microsoft® Windows® Millennium Edition	Windows Me		
Microsoft® Windows® 98 operating system SECOND EDITION	Windows 98		
Microsoft® MS-DOS® operating system	MS-DOS		
VirusScan Ver.4.5.1	VirusScan		
Adobe® Acrobat® Reader 5.0	Acrobat Reader		

※：Windows XP/2000/NT/Me/98 のように併記する場合があります。

■ 機種名表記

本文中の機種名を、次のように略して表記します。

なお、本書ではお使いの機種以外の情報もありますが、ご了承ください。

機種名	本文中の表記	
FMV-7000TX	[TX]	本パソコン／パソコン本体
FMV-6000SL	[SL]	その他のパソコン
FMV-7000FL	[FL]	
FMV-6000CL	[CL]	
FMV-6000CLs	[CLs]	
FMV-6000CX	[CX]	

モデル	本文中の表記
IDE-RAID 搭載	IDE-RAID モデル

■ IDE-RAID モデル

本製品には、標準仕様の他に IDE-RAID モデルが用意されています。

IDE-RAID モデルの詳細については、『IDE-RAID カード取扱説明書』をご覧ください。

■ 警告ラベル／注意ラベル

本パソコンには警告ラベルおよび注意ラベルが貼ってあります。

警告ラベルや注意ラベルは、絶対にはがしたり、汚したりしないでください。

リサイクルについて

■ パソコン本体の廃棄について

パソコン本体（液晶ディスプレイを除いた付属品を含む）を廃棄する場合は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。

- 法人・企業のお客様へ

パソコンを廃棄する場合は、産業廃棄物の扱いとなりますので、産業廃棄物処分量の許可を取得している会社に処分を委託する必要があります。弊社は、「富士通りサイクルシステム」を用意し、お客様の廃棄のお手伝いをしておりますのでご利用ください。

- 個人のお客様へ

パソコンを廃棄する場合は、一般廃棄物の扱いとなりますので、地方自治体の廃棄処理に関連する条例または規則に従ってください。

■ 液晶ディスプレイの廃棄について

液晶ディスプレイ内の蛍光管には水銀が含まれております。

液晶ディスプレイを廃棄する場合は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。

- 法人・企業のお客様へ

液晶ディスプレイを廃棄する場合は、産業廃棄物の扱いとなりますので、産業廃棄物処分量の許可を取得している会社に処分を委託する必要があります。弊社は、「富士通りサイクルシステム」を用意し、お客様の廃棄のお手伝いをしておりますのでご利用ください。

- 個人のお客様へ

液晶ディスプレイを廃棄する場合は、一般廃棄物の扱いとなりますので、地方自治体の廃棄処理に関連する条例または規則に従ってください。

■ 使用済乾電池の廃棄について

ワイヤレスキーボード、ワイヤレスマウスなどには乾電池を使用しており、火中に投げると破裂のおそれがあります。

使用済乾電池を廃棄する場合は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。

- 法人・企業のお客様へ

使用済乾電池を廃棄する場合は、産業廃棄物の扱いとなりますので、産業廃棄物処分量の許可を取得している会社に処分を委託してください。

- 個人のお客様へ

使用済乾電池を廃棄する場合は、一般廃棄物の扱いとなりますので、地方自治体の廃棄処理に関連する条例または規則に従ってください。

■ 富士通りサイクルシステムについて

当社では平成10年より、法人・企業のお客様から廃棄されるパソコン、液晶ディスプレイを「富士通りサイクルシステム」（有料）にて回収・リサイクルし、資源の有効利用に取り組んでおります。

お問い合わせ／お申し込み先：（株）富士通ロジスティクス（電話番号：045-470-5305）

なお、法人・企業以外のお客様はお申し込みできません。

Microsoft、Windows、MS、MS-DOS、Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
Intel、Pentium は、米国インテル社の登録商標です。
Celeron は、米国インテル社の登録商標です。
ATI、RADEON は ATI Technologies, Inc. の登録商標です。
VirusScan は米国法人 Network Associates, Inc. またはその関係会社の米国またはその他の国における登録商標です。
GeForce 3 は、NVIDIA Corporation の商標です。
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2001
画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

第 1 章

各部名称

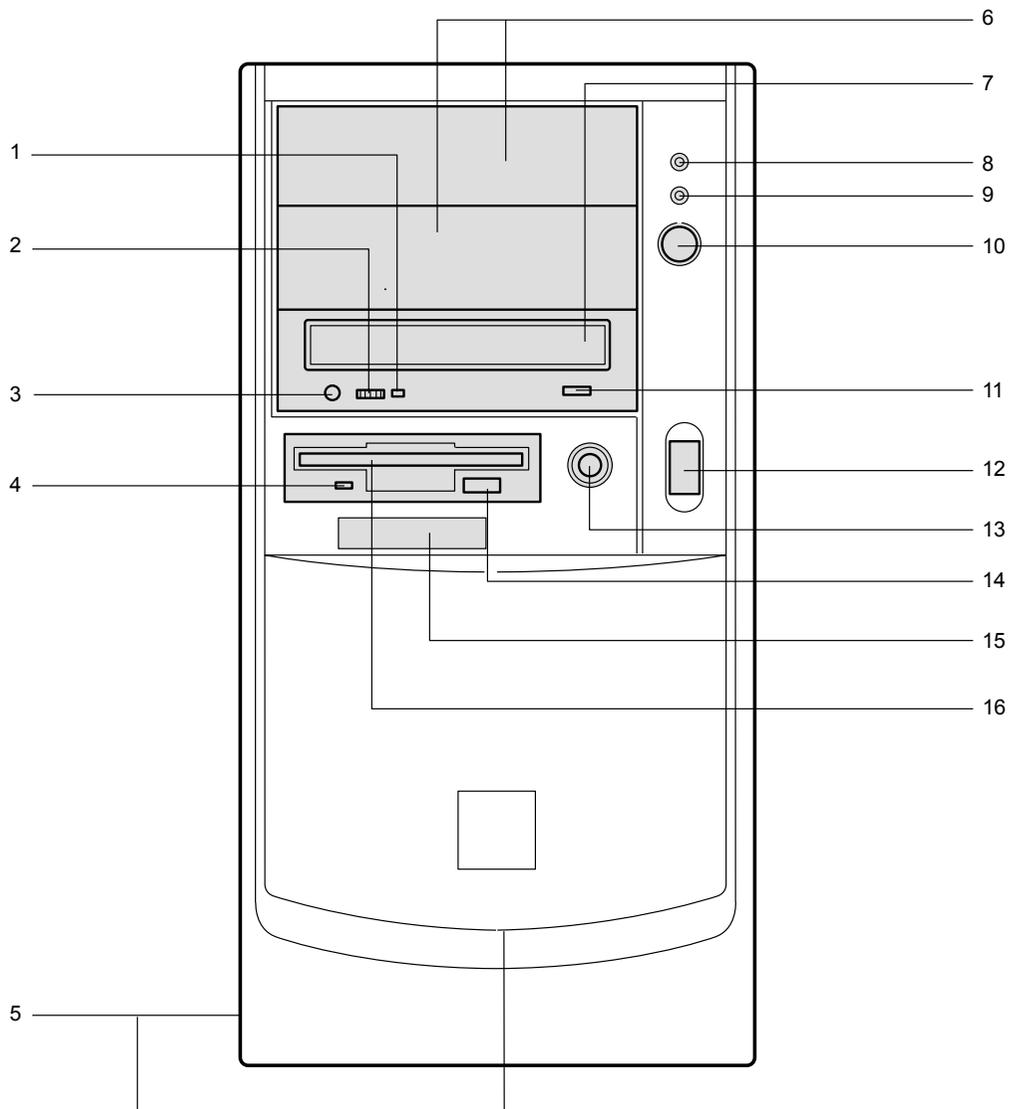
各部の名称と働きについて説明しています。

1 各部の名称と働き	14
------------------	----

1 各部の名称と働き

ここでは、パソコン本体、マザーボードの各部の名称と働きを説明します。

パソコン本体前面



1 CD アクセスランプ

CD-ROMからデータを読み込んでいるときや音楽CDを再生しているときに点灯します。

- 2 ヘッドホンボリューム（音楽 CD のみ）**
ヘッドホンを接続したときに、ヘッドホンの音量を調整します。
- 3 ヘッドホン端子（音楽 CD のみ）**
市販のヘッドホンで音楽 CD を聴くときに、ヘッドホンを接続します。
- 4 フロッピーディスクアクセスランプ**
フロッピーディスクにデータを書き込んだり、フロッピーディスクからデータを読み込んだりしているときに点灯します。
- 5 通風孔（側面およびフロントパネル下部）**
冷却のために空気を取り込みます。
- 6 フロントアクセスベイ**
内蔵 SCSI オプション（光磁気ディスクドライブなど）、内蔵 IDE オプション（ハードディスクなど）を取り付けます。
内蔵オプションは、外付けタイプの機器と異なり、電源をパソコン本体からとるため、コンセントを必要としません。また、省スペースというメリットもあります。
IDE-RAID モデルでは、HDD 用フロントアクセスユニット 2 基が搭載されているので、内蔵オプションを取り付けることはできません。
- 7 CD-ROM ドライブ**
CD-ROM のデータやプログラムを読み出したり、音楽用 CD を再生したりします。
- 8 ディスクアクセスランプ**
ハードディスクにデータを書き込んだり、ハードディスクからデータを読み込んだりしているときに点灯します。
IDE-RAID モデルの場合、増設したハードディスクにアクセスしたとき、点灯します。
- 9 電源ランプ**
パソコン本体に電源が入っているときに緑色に点灯します。
スタンバイ状態（省電力状態）時にはオレンジ色に点灯します。
- 10 電源ボタン**
パソコン本体の電源を入れるときや、OS の設定によりスタンバイ状態（省電力状態）にするときに押します。
- 11 CD 取り出しボタン**
CD-ROM をセットするときや取り出すときに押します。
- 12 USB コネクタ**
カバーを上にもスライドさせて、USB 規格の機器を接続します。
- 13 リセットスイッチ**
メモリ内のデータ消去、OS などのソフトウェアの再読み込み、および各種オプションカード、ハードディスクドライブなどの周辺機器を初期化するときに押します。
- POINT**
- ▶ なんらかの原因によって、本パソコンが停止し、OS 上からリセットできない場合は、上記の方法でリセットを行ってください。
また、本パソコンが停止しても、むやみに電源を切らないでください。
ハードディスクの故障の原因となることがあります。
- 14 フロッピーディスク取り出しボタン**
フロッピーディスクを取り出すときに押します。
フロッピーディスクアクセスランプが点灯しているときは、押さないでください。

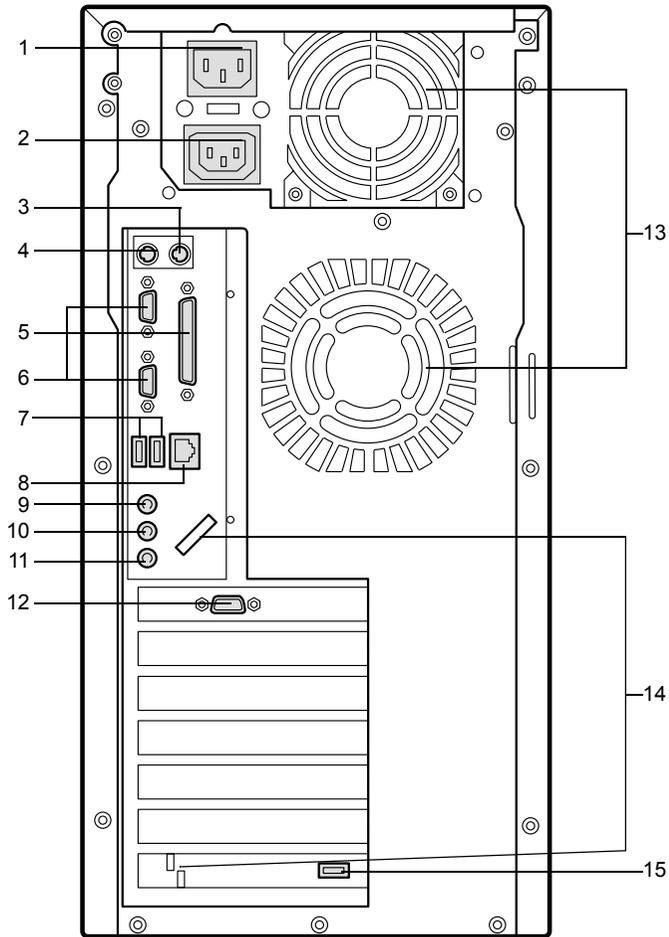
15 スマートカードベイ

カスタムメイドのスマートカードリーダー/ライターを取り付けます。

16 フロッピーディスクドライブ

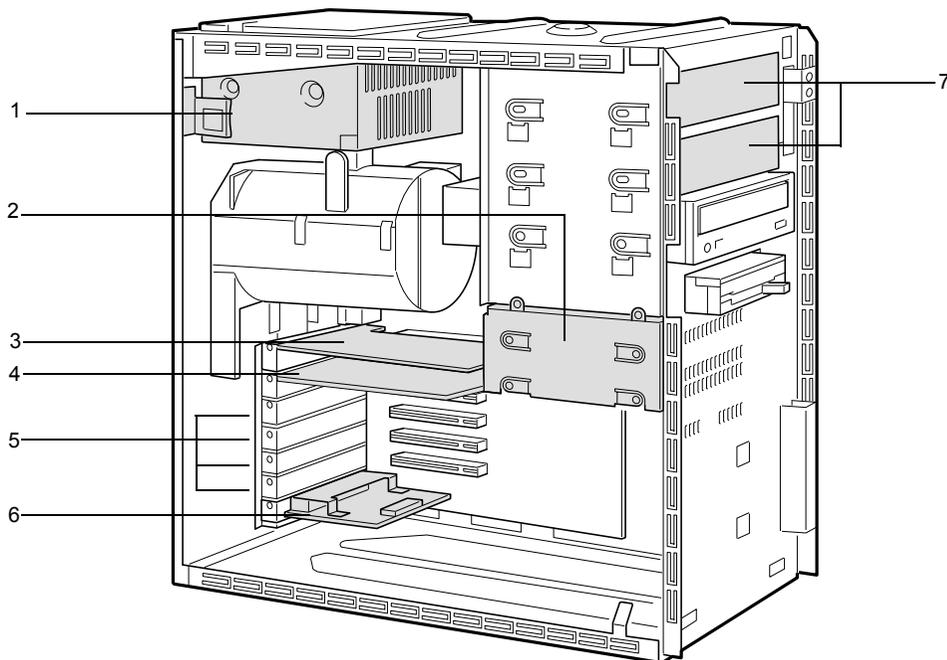
フロッピーディスクにデータを書き込んだり、フロッピーディスクからデータを読み込んだりします。

パソコン本体背面



- 1 インレット**
電源ケーブルを接続します。
- 2 アウトレット**
ディスプレイの電源ケーブルを接続します。
- 3 マウスコネクタ** ( : MOUSE)
マウスを接続します。
- 4 キーボードコネクタ** ( : KEYBOARD)
キーボードを接続します。
- 5 パラレルコネクタ (PRINTER)**
プリンタのケーブルを接続します。
- 6 シリアルコネクタ (RS232C)**
モデムなど RS-232C 規格の機器のケーブルを接続します。
- 7 USB コネクタ**
USB 規格の機器を接続します。
- 8 LAN コネクタ**
LAN ケーブルを接続します。
- 9 ラインアウト端子**
サウンド出力用端子。オーディオ機器の入力端子を接続します。
スピーカーを直接接続する場合は、アンプ機能内蔵のものをお使いください。
- 10 ラインイン端子**
サウンド入力用端子。オーディオ機器の出力端子を接続します。
- 11 マイク端子**
市販のコンデンサマイクを接続します。
- 12 CRT コネクタ**
アナログ RGB 規格のディスプレイケーブルを接続します。
- 13 通風孔**
パソコン本体内部の熱を外部に逃すための開孔部です。
- 14 USB 固定用スリット**
USB コネクタに接続するケーブルを、固定します。
添付のナイロンバンドを切りかけ部分に通し、ケーブルを止めます。
- 15 USB コネクタ**
USB 規格の機器を接続します。
カスタムメイドのスマートカードリーダー/ライタが取り付けられている場合、本コネクタはありません。

パソコン本体内部



1 電源ユニット

2 内蔵ハードディスクベイ

IDE 規格の内蔵ハードディスクを取り付けます。標準装備の内蔵ハードディスクを、より大容量のハードディスクに交換することができます。

IDE-RAID モデルでは、ハードディスクは取り付けられていません（空きベイ）。

3 ディスプレイカード

4 IDE-RAID カード（IDE-RAID モデルのみ）

5 拡張カードスロット

本パソコンの機能を拡張する各種拡張カードを取り付けます。

PCI カードを取り付けることができます。

6 USB コネクタ基板

カスタムメイドのスマートカードリーダー／ライターが取り付けられている場合は、本基板はありません。

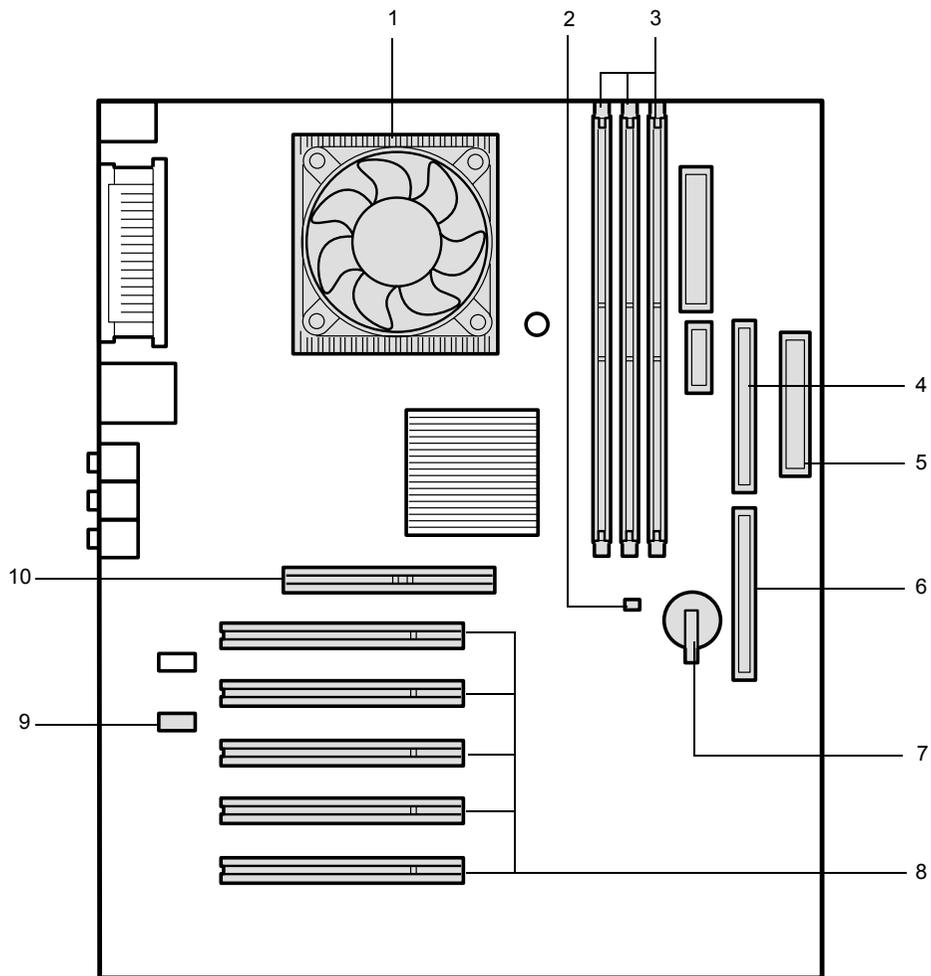
7 フロントアクセスベイ

内蔵 SCSI オプション（光磁気ディスクドライブなど）、内蔵 IDE オプション（ハードディスクなど）を取り付けます。

内蔵オプションは、外付けタイプの機器と異なり、電源をパソコン本体からとるため、コンセントを必要としません。また、省スペースというメリットもあります。

IDE-RAID モデルでは、HDD 用フロントアクセスユニット 2 基が搭載されているので、内蔵オプションを取り付けることはできません。

マザーボード



- 1 CPU (CPU ファンの下にあります)**
- 2 メモリ電源 LED**

メモリに電源が供給されている場合に点灯します。
- 3 メモリスロット**

メモリを取り付けます。図中左から DIMM1 ~ 3 と並んでいます。
メモリを増設すると、一度に読み込めるデータの量が増え、パソコンの処理能力があがります。
- 4 セカンダリ IDE コネクタ**

CD-ROM ドライブのケーブルを接続します。
- 5 フロッピーコネクタ**

フロッピーディスクドライブのケーブルを接続します。
- 6 プライマリ IDE コネクタ**

OS が起動するハードディスクのケーブルを接続します (IDE-RAID モデルを除く)。
- 7 内蔵バッテリー**

本パソコンのセットアップ値を保存するためのバッテリーです。標準の使用状態 (1 日 8 時間) で約 5 年間お使いになれます。
- 8 PCI スロット**

PCI カードを取り付けます。図中上から、PCI スロット 1 ~ 5 と並んでいます。
SCSI カードを取り付ければ、SCSI 規格のハードディスクや光磁気ディスクドライブを取り付けられるようになります。
- 9 CD IN コネクタ (黒)**

CD-ROM ドライブからの AUDIO ケーブルを接続します。
- 10 AGP コネクタ**

ディスプレイカードを取り付けます。

Memo

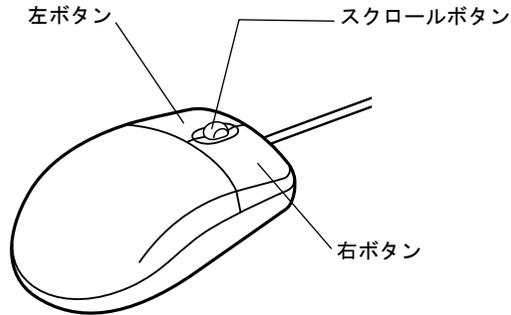
第2章

ハードウェア

本パソコンをお使いになるうえで必要となる基本操作や基本事項を説明しています。

1	マウスについて	24
2	キーボードについて	26
3	CDについて	28
4	フロッピーディスクについて	30
5	ハードディスクについて	32
6	ハードウェアのお手入れ	33
7	筐体のセキュリティ	36

1 マウスについて



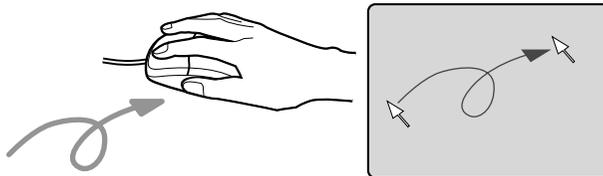
POINT

- ▶ マウスは、定期的にクリーニングを行ってください (→ P.33)。

マウスの使い方

■ マウスの動かし方

マウスの左右のボタンに指がかかるように手をのせ、机の上などの平らな場所で滑らせるように動かします。マウスの動きに合わせて、画面上の矢印（これを「マウスポインタ」といいます）が同じように動きます。画面を見ながら、マウスを動かしてみてください。



■ ボタンの操作

● クリック

マウスの左ボタンを1回カチッと押します。
また、右ボタンをカチッと押すことを「右クリック」といいます。



- **ダブルクリック**

マウスの左ボタンを2回連続してカチカチッと押します。



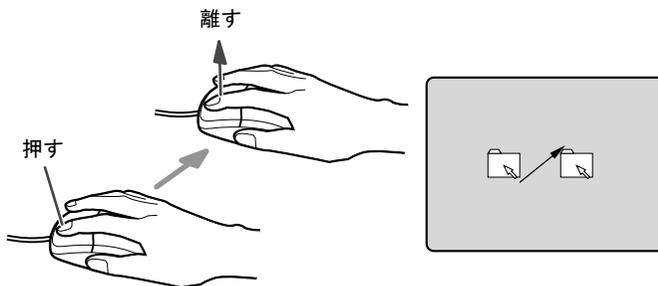
- **ポイント**

マウスポインタをメニューなどに合わせます。マウスポインタを合わせたメニューの下に階層がある場合(メニューの右端に▶が表示されています)、そのメニューが表示されます。



- **ドラッグ**

マウスの左ボタンを押したままマウスを移動し、希望の位置でボタンを離します。



- **スクロール**

- ・スクロールボタンを前後に操作することで、ウィンドウ内の表示をスクロールさせることができます。また、第3のボタンとして、押して使うこともできます。
- ・スクロール機能は、対応したアプリケーションで使うことができます。

POINT

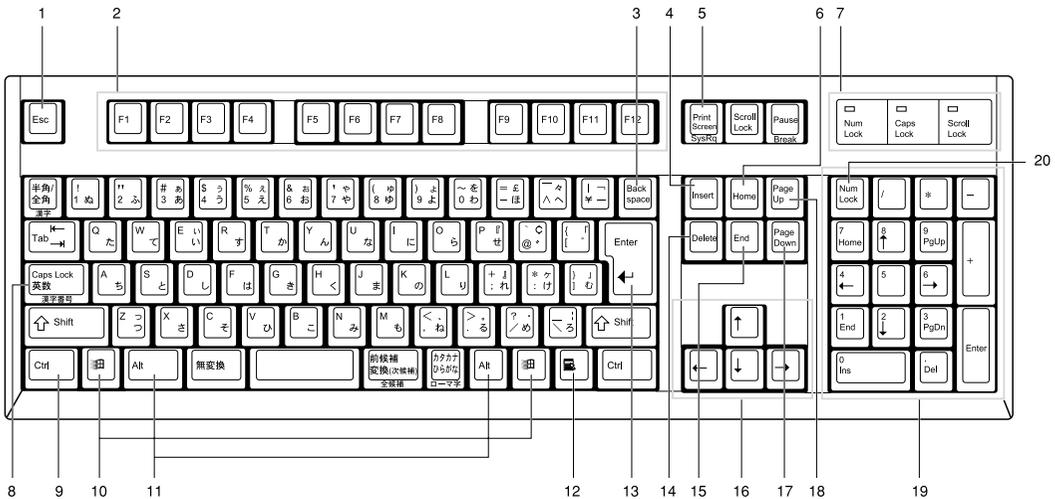
- ▶ 上記のボタン操作は、「マウスのプロパティ」ダイアログボックスで右利き用(主な機能に左側のボタンを使用)に設定した場合の操作です。

2 キーボードについて

キーボード（109日本語キーボード）のキーの役割を説明します。

POINT

- ▶ お使いになる OS やアプリケーションにより、キーの役割が変わることがあります。OS やアプリケーションのマニュアルをご覧ください。



1 Esc キー

ソフトウェアの実行中の動作を終了します。

2 F キー

アプリケーションごとにいろいろな役割が割り当てられます。

3 Back space キー

カーソルを左へ移動し、文字を削除するときに押します。

4 Insert キー

文字の挿入／上書きの切り替えをするときに押します。

5 Print Screen キー

画面表示をクリップボードに取り込みます。

6 Home キー

カーソルを行の最初や文書の最初に、一度に移動するときに押します。

7 インジケータ

【Num Lock】キー、【Shift】+【Caps Lock 英数】キー、【Scroll Lock】キーを押すと点灯し、各キーが機能する状態になります。再び押すと消え、各キーの機能が解除されます。

8 Caps Lock、英数キー

アルファベットを入力するときに使います。

【Shift】+【Caps Lock 英数】キーで大文字／小文字を切り替えます。

9 Ctrl キー

他のキーと組み合わせて使います。アプリケーションごとに機能が異なります。

10 Windows キー

「スタート」メニューを表示するときに押します。

11 Alt キー

他のキーと組み合わせて使います。アプリケーションごとに機能が異なります。

12 Application キー

マウスの右クリックと同じ役割をします。

選択した項目のショートカットメニューを表示するときに押します。

13 Enter キー

リターンキーまたは改行キーとも呼ばれます。

文を改行したり、コマンドを実行したりします。

14 Delete キー

文字を削除するときに押します。また、【Ctrl】キーと【Alt】キーを一緒に押すと、本パソコンをリセットできます。

15 End キー

カーソルを行の最後や文書の最後に、一度に移動するときに押します。

16 カーソルキー

カーソルを移動します。

17 Page Down キー

次の画面に切り替えるときに押します。

18 Page Up キー

前の画面に切り替えるときに押します。

19 テンキー

「Num Lock」インジケータ点灯時に数字が入力できます。

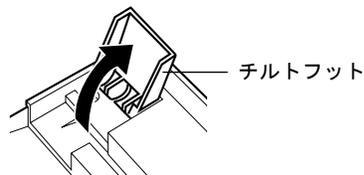
「Num Lock」インジケータ消灯時にキー下段に刻印された機能が有効になります。

20 Num Lock キー

テンキーの機能を切り替えるときに押します。

POINT

- ▶ キーボード底面にあるチルトフットを起こすと、キーボードに角度をつけることができます。



3 CD について

CD の取り扱いやセット方法、取り出し方法を説明します。

取り扱い上の注意

故障の原因となりますので、CD をお使いになるときは、次の点に注意してください。

■ CD 媒体の注意事項

- ディスクは両面ともラベルを貼ったり、ボールペンや鉛筆などで字を書いたりしないでください。
- データ面をさわったり、傷をつけたりしないでください。
- 曲げたり、重いものを載せたりしないでください。
- 汚れたり水滴がついたりしたときは、少し湿らせた布で中央から外側へ向かって拭いた後、乾いた布で拭き取ってください。
- コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- 高温や低温の場所に保管しないでください。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。

■ ドライブの注意事項

- 「CD 媒体の注意事項」が守られていない CD、ゆがんだ CD、割れた CD、ヒビの入った CD はお使いにならないでください。故障の原因となることがあります。上記の CD をお使いになり故障した場合は、保証の対象外となります。
- 本パソコンは、円形の CD のみお使いになれます。円形以外の異形 CD はお使いにならないでください。故障の原因となることがあります。異形 CD をお使いになり故障した場合は、保証の対象外となります。
- 市販の CD-ROM クリーニングディスクを使ってクリーニングを行うと、レンズにゴミなどが付着することがあります。CD-ROM クリーニングディスクをお使いにならないでください。

POINT

- ▶ CD-ROM は、音楽用 CD (コンパクトディスク) に、音の代わりにパソコンの情報 (文字など) を保存したものです。ROM とは、「Read Only Memory」の略で、読み取り専用という意味です。本パソコンでは、CD-ROM の情報を読み取ることはできますが、書き込むことはできません (カスタムメイドで CD-R/RW を選択した場合を除く)。
- ▶ 本パソコンでは、次図のマークがついた CD のみお使いになれます。マークのない CD はお使いにならないでください。故障の原因となることがあります。
また、マークの種類によっては、アプリケーションが必要になる場合があります。



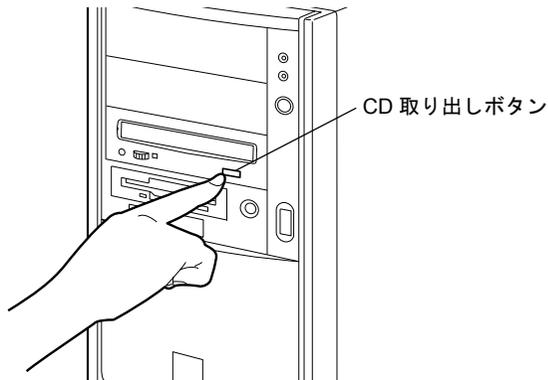
※1：CD-R/RW ドライブをお使いの場合に、書き込みができます。

※2：データを書き込む場合は、High Speed 対応のドライブが必要です。

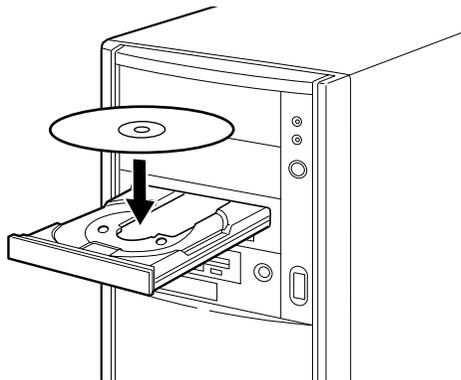
CD をセットする／取り出す

■ CD をセットする

- 1 CD 取り出しボタンを押します。
CD をセットするトレイが出てきます。



- 2 CD のレーベル面を上にして、トレイの中央に置きます。



- 3 CD 取り出しボタンを押します。
トレイが本体に入り、CD がセットされます。

POINT

- ▶ CD をセットすると、CD アクセスランプが点灯します。CD アクセスランプが消えるのを確認してから、次の操作に進んでください。

■ CD を取り出す

CD の取り出しは、CD アクセスランプが消えているのを確認してから、CD 取り出しボタンを押して行ってください。

4 フロッピーディスクについて

フロッピーディスクの取り扱いやセット方法、取り出し方法を説明します。

取り扱い上の注意

故障の原因となりますので、フロッピーディスクをお使いになるときは、次の点に注意してください。

- コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- シャッタを開いて中のディスクにさわらないでください。
- 曲げたり、重いものを載せたりしないでください。
- 磁石などの磁気を帯びたものを近づけないでください。
- 固い床などに落とさないでください。
- 高温や低温の場所に保管しないでください。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。
- ラベルを何枚も重ねて貼らないでください（ドライブにつまる原因になります）。
- 結露、または水滴がつかないようにしてください。

フロッピーディスクをセットする／取り出す

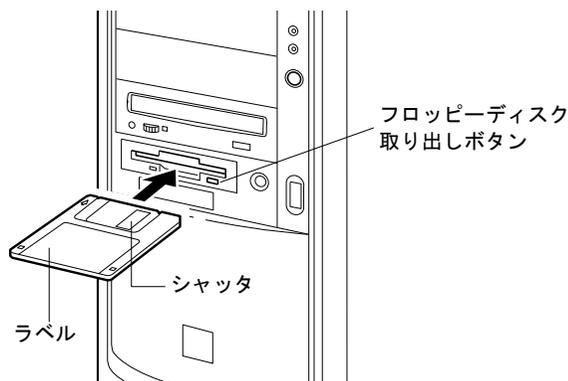
POINT

- ▶ DOS/V フォーマット済みのフロッピーディスクをお使いください。その他のフロッピーディスクをお使いになると、動作が保証されません。

■ フロッピーディスクをセットする

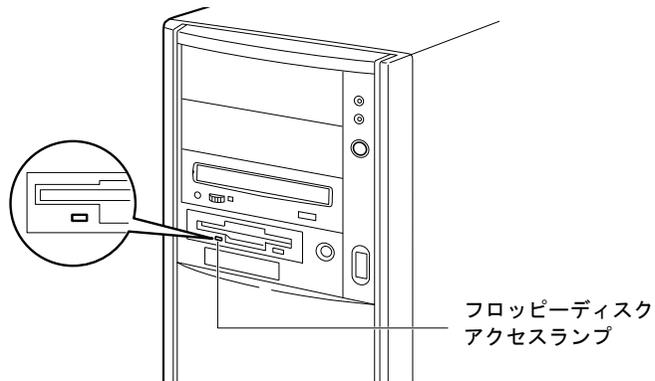
ラベルを上に向け、シャッタのある側から、フロッピーディスクドライブに差し込みます。

「カシャッ」と音がして、フロッピーディスク取り出しボタンが飛び出します。



■ フロッピーディスクを取り出す

- 1 フロッピーディスクアクセスランプが消えていることを確認します。



POINT

- ▶ フロッピーディスクアクセスランプの点灯中に、フロッピーディスクを取り出さないでください。データが破壊されるおそれがあります。

- 2 フロッピーディスク取り出しボタンを押します。
フロッピーディスクが出てきます。

5 ハードディスクについて

ハードディスクの取り扱いについて、気をつけていただきたいことを説明します。

注意事項

故障の原因となりますので、次の点に注意してください。

- ハードディスクの内部では、情報を記録するディスクが高速に回転しながら、情報の読み書きを行っています。非常にデリケートな装置ですので、電源が入ったままの状態では本パソコンを持ち運んだり、衝撃や振動を与えたりしないでください。
- 極端に温度変化が激しい場所での使用および保管は避けてください。
- 直射日光のあたる場所や発熱器具のそばには近づけないでください。
- 衝撃や振動の加わる場所での使用および保管は避けてください。
- 湿気やほこりの多い場所での使用および保管は避けてください。
- 磁石や強い磁界を発生する装置の近くでの使用および保管は避けてください。
- 分解したり、解体したりしないでください。
- 結露や水滴がつかないようにしてください。

POINT

- ▶ 取り扱い方法によっては、ディスク内のデータが破壊される場合があります。重要なデータは必ずバックアップを取っておいてください。
- ▶ 同一タイプのハードディスクでも若干の容量差があります。ハードディスク単位ではなくファイル単位、または区画単位でのバックアップをお勧めします。

6 ハードウェアのお手入れ

パソコン本体のお手入れ

⚠ 警告

感電



- お手入れをする場合は、パソコン本体および接続されている装置の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。感電の原因となります。

- 柔らかい布でから拭きします。から拭きで落ちない汚れは、中性洗剤をしみ込ませ固くしぼった布で拭きます。汚れが落ちたら、水に浸して固くしぼった布で、中性洗剤を拭き取ります。拭き取りのときは、パソコン本体に水が入らないようにご注意ください。
- 中性洗剤以外の洗剤や溶剤などをお使いにならないでください。パソコン本体を損傷する原因となります。
- 通風孔にはほこりがたまらないよう、掃除機などでほこりを吸引するなど、定期的に清掃してください。

マウスのお手入れ

表面の汚れは、柔らかい布でから拭きします。マウスのボールがスムーズに回転しないときは、ボールを取り外してクリーニングします。ボールのクリーニング方法は、次のとおりです。

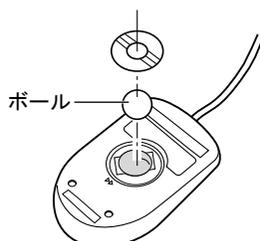
1 マウスの裏ボタンを取り外します。

マウス底面にある裏ボタンを、矢印の方向に回して取り外します。



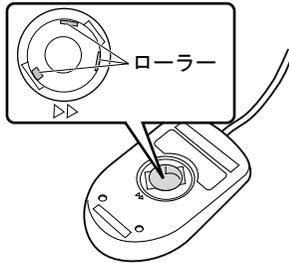
2 ボールを取り出して、水洗いします。

マウスをひっくり返し、ボールを取り出します。その後、ボールを水洗いします。



3 マウス内部をクリーニングします。

マウス内部、ローラー、および裏ボタンを、水に浸して固くしぼった布で拭きます。



4 ボール、裏ボタンを取り付けます。

ボールとマウスの内部を十分乾燥させたら、ボールと裏ボタンを取り付けます。

キーボードのお手入れ

柔らかい布でから拭きします。

CDのお手入れ

- 汚れたり水滴がついたりしたときは、少し湿らせた布で中央から外側へ向かって拭いた後、乾いた布で拭き取ってください。
- 市販のCD-ROM クリーニングディスクを使ってCD-ROM ドライブをクリーニングすると、レンズにゴミなどが付着することがあります。CD-ROM クリーニングディスクをお使いにならないでください。

フロッピーディスクドライブのお手入れ

フロッピーディスクドライブは、長い間使っていると、ヘッド（データを読み書きする部品）が汚れてきます。ヘッドが汚れると、フロッピーディスクに記録したデータを正常に読み書きできなくなります。別売（サプライ品）のクリーニングフロッピーで、3ヶ月に1回程度クリーニングしてください。

- サプライ品
クリーニングフロッピーマイクロ
商品番号：0212116
（富士通コワーコ取り扱い品：☎03-3342-5375）

■ Windows XP/2000/NT/Me モデルの場合

- 1 クリーニングフロッピーをフロッピーディスクドライブにセットします。
- 2 コマンドプロンプト (Windows XP/2000/NT) または MS-DOS プロンプト (Windows Me) から、dir などのディスクにアクセスするコマンドを実行します。
例) 次のように入力し、【Enter】キーを押します。
dir a:
- 3 フロッピーディスクアクセスランプが消えているのを確認し、クリーニングフロッピーを取り出します。

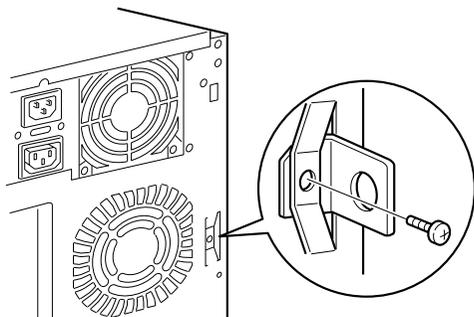
■ Windows 98 モデルの場合

- 1 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 2 「名前」に次のように入力し、【Enter】キーを押します。
c:¥fjuty¥cIndsk 0
- 3 クリーニングフロッピーをフロッピーディスクドライブにセットして【Enter】キーを押します。
ヘッドクリーニングが始まり、「クリーニング中です。あと XX 秒」と表示されます。
「ヘッドクリーニングが終了しました。」とメッセージが表示されたら終了です。
- 4 フロッピーディスクアクセスランプが消えているのを確認し、クリーニングフロッピーを取り出します。

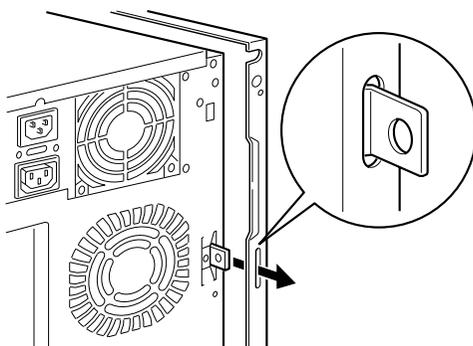
7 筐体のセキュリティ

パソコン内部の装置（ハードディスクやCPUなど）を盗難から守るため、本パソコンのカバーに施錠できます。

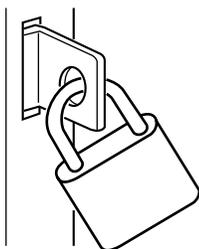
- 1 サイドカバーを取り外します。
- 2 セキュリティキー取り付け金具を取り付けます。



- 3 サイドカバーを取り付けます。
サイドカバー背面にあるスリットに、セキュリティキー取り付け金具を通します。



- 4 セキュリティキー取り付け金具にお手持ちの鍵を取り付けます。



第3章 増設

3

本パソコンに取り付けられている（取り付け可能な）周辺機器について、基本的な取り扱い方などを説明しています。

1 周辺機器を取り付ける前に	38
2 本体カバーを取り外す	40
3 メモリを取り付ける	44
4 拡張カードを取り付ける	49
5 内蔵オプションを取り付ける	53

1 周辺機器を取り付ける前に

本パソコンは、さまざまな周辺機器を接続または内蔵して、機能を拡張できます。

⚠ 警告



- 周辺機器を接続する場合には、弊社推奨品以外の機器は接続しないでください。
感電・火災または故障の原因となります。

⚠ 注意



- 周辺機器類の取り付け、取り外しを行う際は、マニュアルに指定された場所以外のネジは、外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがををするおそれがあり、また、故障の原因となることがあります。



- ケーブル類の接続は本書をよく読み、接続時に間違いがないようにしてください。
誤った接続状態でお使いになると、本パソコンおよび周辺機器が故障する原因となる場合があります。

取り扱い上の注意

周辺機器を取り付けるときは、次のことに注意してください。

- 周辺機器の中には、機種によってお使いになれないものがあります
ご購入の前に『システム構成図』をご覧になり、その周辺機器が使えるかどうかを確認してください。
- 周辺機器は、弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします
純正品が用意されている周辺機器については、純正品以外を取り付けて、正常に動かなかったり、パソコンが故障しても、保証の対象外となります。
純正品が用意されていない機器については、本パソコンに対応しているかどうかをお使いの周辺機器メーカーにご確認ください。
- Windows のセットアップは終了していますか？
セットアップを行う前に周辺機器を取り付けると、セットアップが正常に行われずおそれがあります。
『取扱説明書』をご覧になり、Windows のセットアップを行ってください。
- 一度に取り付ける周辺機器は 1 つだけに
一度に複数の周辺機器を取り付けると、ドライバのインストールなどが正常に行われずおそれがあります。
- パソコンおよび接続されている機器の電源を切る
安全のため、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。パソコンの電源を切った状態でも、パソコン本体内部には電流が流れています。
- 電源を切った直後は作業をしない
電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後 10 分ほど待ってから作業を始めてください。

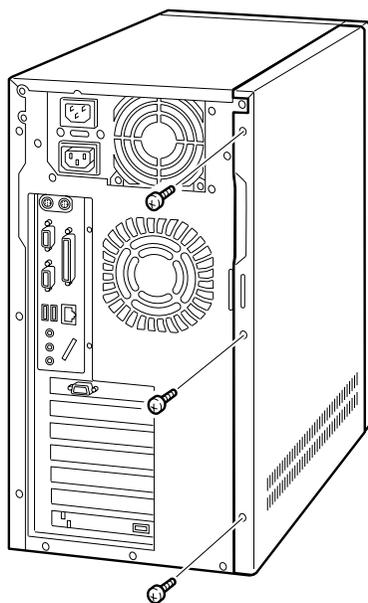
- **標準搭載・カスタムメイドオプション等の搭載位置について**
標準搭載や、カスタムメイドオプションで搭載された機器は、工場出荷の状態から搭載位置・内部ケーブルの接続先等を変更することをサポートしておりません。ただし、マニュアル等に指示がある場合は除きます。
- **電源ユニットは分解しない**
電源ユニットは、パソコン本体内部の背面側にある箱形の部品です。「各部名称」－「パソコン本体内部」(→ P.19)
- **内部のケーブル類や装置の扱いに注意**
傷つけたり、加工したりしないでください。
- **静電気に注意**
内蔵周辺機器は、基板や電子部品がむきだしになっています。これらは、人体に発生する静電気によって損傷を受ける場合があります。取り扱う前に、一度大きな金属質のものに手を触れるなどして静電気を放電してください。
- **基板表面やはんだ付けの部分、コネクタ部分には手を触れない**
金具の部分や、基板のふちを持つようにしてください。
- **周辺機器の電源について**
周辺機器の電源はパソコン本体の電源を入れる前に入れるものが一般的ですが、パソコン本体より後に電源を入れるものもあります。周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- **ACPIに対応した周辺機器をお使いください (Windows XP/2000/Me/98)**
本パソコンは、ACPI (省電力に関する電源制御規格の1つ) によって制御していますので、周辺機器も ACPI に対応している必要があります。
ACPI に対応していない周辺機器をお使いの場合は、増設した機器やパソコンが正常動作しなくなることがあります。周辺機器が ACPI に対応しているかどうかは、周辺機器の製造元にお問い合わせください。
- **ドライバーを用意する**
周辺機器の取り付けや取り外しには、プラスのドライバーが必要です。
ネジの頭をつぶさないように、ネジのサイズに合ったドライバーをご用意ください。

2 本体カバーを取り外す

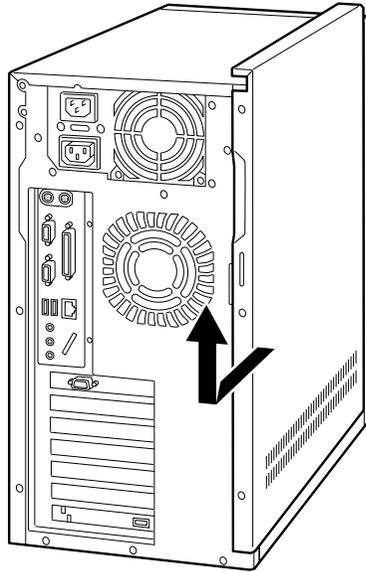
本体カバーの取り外し方

周辺機器を取り付けるときは、サイドカバーを取り外して、内部が見える状態にします。フロントアクセスベイに内蔵オプションを取り付けるときは、さらに、アッパーカバー、フロントパネルを取り外します。取り外し方は、次のとおりです。

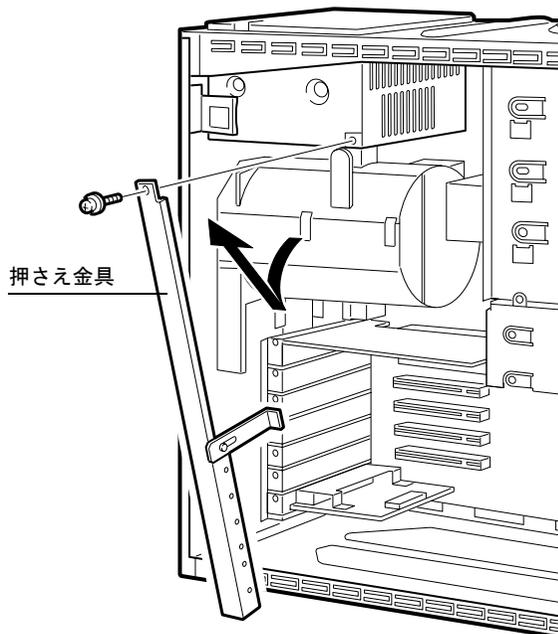
- 1 パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。
- 2 パソコン本体背面の右側 3ヶ所のネジを外します。



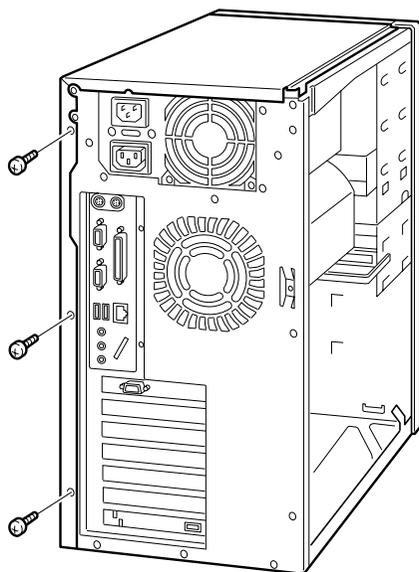
- 3** サイドカバーを取り外します。
パソコン本体背面側にスライドさせます。
上方に持ち上げ、取り外します。



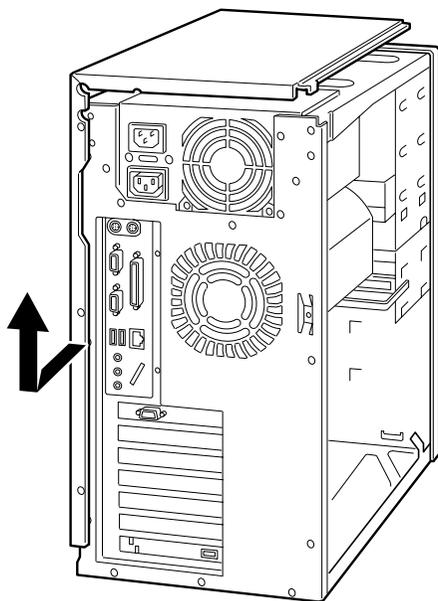
- 4** 押さえ金具を取り外します。
ネジ (1ヶ所) を外し、取り外します。



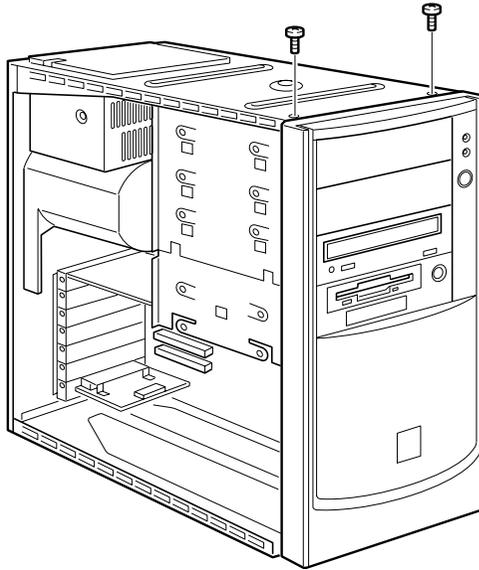
- 5** パソコン本体背面の左側 3ヶ所のネジを外します。



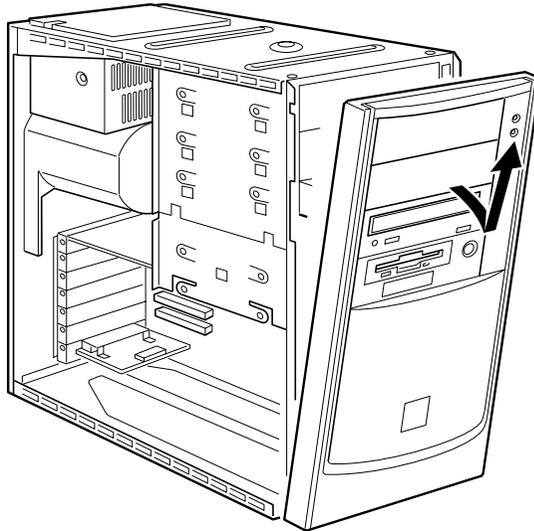
- 6** アッパーカバーを取り外します。
パソコン本体背面側にスライドさせます。
上方に持ち上げ、取り外します。



7 フロントパネルの上端 2ヶ所のネジを外します。



8 フロントパネルを取り外します。
フロントパネルを手前に倒してから、上方に引き抜きます。



POINT

- ▶ アッパーカバー、フロントパネルは、必要に応じて取り外してください。
- ▶ 取り付けは、取り外す手順を参照して行ってください。

3 メモリを取り付ける

本パソコンのメモリを増やすと、一度に読み込めるデータの量が増え、パソコンの処理能力があがります。

POINT

- ▶ ご購入後、メモリを取り付ける場合は、Windows のセットアップを行ってから、一度電源を切った後に取り付けを行ってください（→ 『取扱説明書』）。
- ▶ メモリ交換または増設の際は、電源を切り電源プラグをコンセントから抜いた後、数十分放置してから作業を行ってください。

警告



- メモリの取り付けや取り外しを行う場合は、パソコン本体および接続されている装置の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。
感電の原因となります。



- メモリを取り付ける場合は、弊社純正品をお使いください。
感電・火災または故障の原因となります。

注意



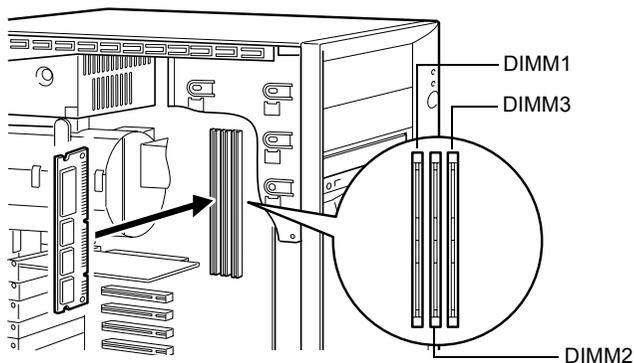
- メモリの取り付けや取り外しを行う場合は、指定された場所以外のネジは外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。
また、故障の原因となることがあります。



- プリント板は、指定されている場所以外には手を触れないでください。
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

メモリの取り付け場所

メモリはパソコン本体内部のメモリスロットに取り付けます。



取り付けられるメモリ

本パソコンにメモリを増設する場合は、弊社純正品の「DIMM、ECC 対応、PC133」をお使いください。

■ メモリの組み合わせ表

最大で 1536MB のメモリを取り付けることができます。

メモリを拡張するときは、次の表でメモリの容量とスロットの組み合わせを確認し、正しく取り付けてください。表以外の組み合わせでは、本パソコンが正しく動作しない場合があります。

DIMM1	DIMM2	DIMM3	総容量
128 MB	—	—	128 MB
256MB	—	—	256 MB
128MB	256MB	—	384 MB
256MB ※1	256MB ※1	—	512MB
512MB	—	—	512MB
128MB ※1	256MB ※1	256MB ※1	640 MB (Windows Me/98 不可)
128MB	512MB	—	640 MB (Windows Me/98 不可)
256MB ※1	256MB ※1	256MB ※1	768 MB (Windows Me/98 不可)
256MB	512MB	—	768 MB (Windows Me/98 不可)
128MB	256MB	512MB	896 MB (Windows Me/98 不可)
256MB ※1	256MB ※1	512MB ※1	1024 MB (Windows Me/98 不可)
512MB	512MB	—	1024 MB (Windows Me/98 不可)
128MB	512MB	512MB	1152MB (Windows Me/98 不可)
256MB	512MB	512MB	1280MB (Windows Me/98 不可)
構成不可			1408MB (Windows Me/98 不可)
512MB	512MB	512MB	1536MB (Windows Me/98 不可)

※1：カスタムメイドオプションでは選択できない組み合わせです。

※2：メモリの組み合わせには以下の制限があります。

- ・128MB は DIMM1 のみ搭載可能
- ・各 DIMM 容量は、DIMM1 ≤ DIMM2 ≤ DIMM3 であること。

メモリを取り付ける

ここでは、DIMMIに取り付けられているメモリを取り替える作業を例にして、メモリの取り付け方法を説明します。

POINT

- ▶ 中継モジュールとメモリの取り付けや取り外しを行うときは、本パソコンが倒れないように、本パソコンを支えてください。パソコン本体を横置きにすると、作業しやすくなります。
- ▶ フロントアクセスベイに内蔵オプションが取り付けられている場合、メモリの取り付けや取り外しが行いにくいことがあります。その場合、「メモリを取り付ける」の手順3を行った後本体カバーを外し（→ P.40）、フロントアクセスベイに取り付けられている内蔵オプションのネジを外して（→ P.63）パソコン前面にずらすと、作業しやすくなります。なお、内蔵オプションをフロントアクセスベイにもどす際は、内蔵オプションがメモリに接触しないよう注意してください。

1 電源プラグをコンセントから抜きます。

2 サイドカバーを取り外します（→ P.41）。

メモリ電源 LED（→ P.21）が消えていることを確認してください。メモリ電源 LED が点灯している場合は、電源ケーブルを外してから作業を続けてください。

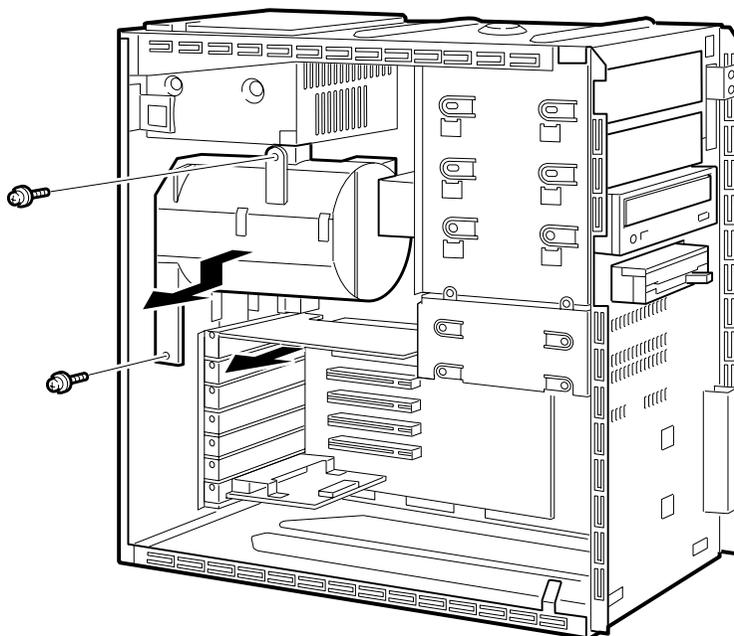
3 押さえ金具を取り外します（→ P.41）。

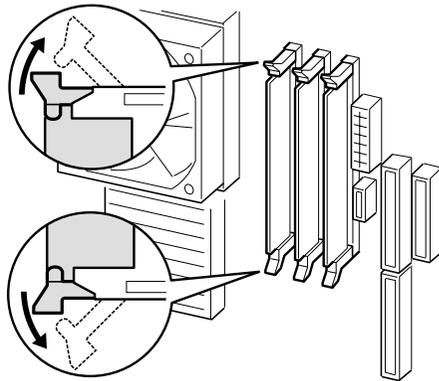
4 ダクトを取り外します。

ネジ（2ヶ所）を外して、取り外します。

5 ディスプレイカードを取り外します。

ディスプレイカードは、AGP コネクタにツメでロックされています。ツメを外しながら取り外します。



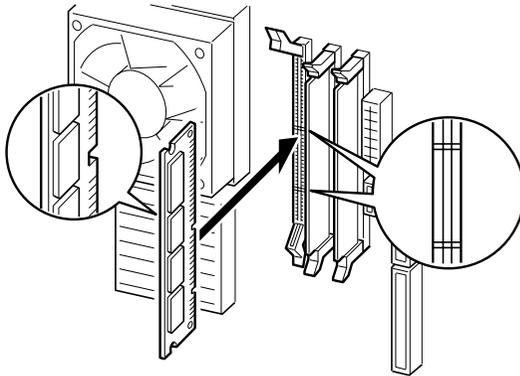
6 スロットの両側のフックを開いて、メモリを抜きます。**POINT**

- ▶ フックを勢いよく開くと、メモリが飛び抜け、故障の原因となることがありますので、ご注意ください。
- ▶ 中継モジュールを取り外した場合は、大切に保管しておいてください。

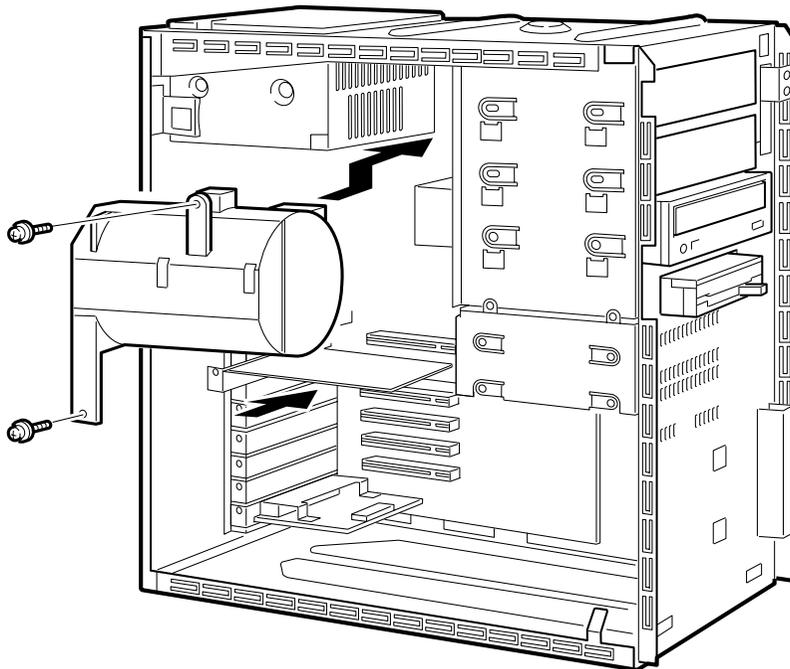
7 メモリをスロットに差し込みます。

メモリとスロットの切り欠け部分を合わせるようにして、スロットに垂直にメモリを差し込みます。

正しく差し込まれると、スロットの両側のフックが起きます。このとき、フックがメモリをしっかり固定しているか確認してください。

**8** ディスプレイカードを取り付けます。

- 9** ダクトを取り付けます。
手順4で取り外したネジ（2ヶ所）で固定します。



- 10** 押さえ金具を取り付けます。
11 サイドカバーを取り付けます。

POINT

- ▶ メモリの取り外しは、取り付ける手順を参照して行ってください。

4 拡張カードを取り付ける

拡張カードは、本パソコンの機能を拡張します。

POINT

- ▶ ご購入後、拡張カードを取り付ける場合は、Windows のセットアップを行ってから、一度電源を切った後に取り付けを行ってください（→『取扱説明書』）。

警告



- 拡張カードの取り付けや取り外しを行う場合は、パソコン本体および接続されている装置の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。感電の原因となります。



- 拡張カードを取り付ける場合は、弊社純正品をお使いください。感電・火災または故障の原因となることがあります。

注意



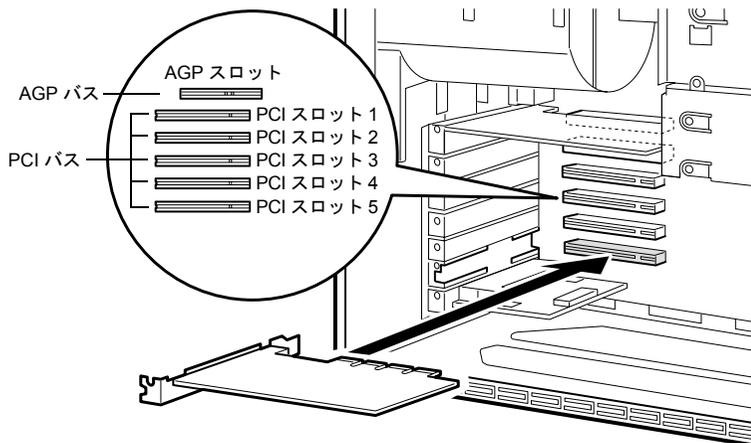
- 拡張カードの取り付けや取り外しを行う場合は、指定された場所以外のネジは外さないでください。指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



- プリント板は、指定されている場所以外には手を触れないでください。けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。
- マザーボードのパソコン本体背面側の金具には、手を触れないでください。けがをするおそれがあります。また故障の原因となることがあります。

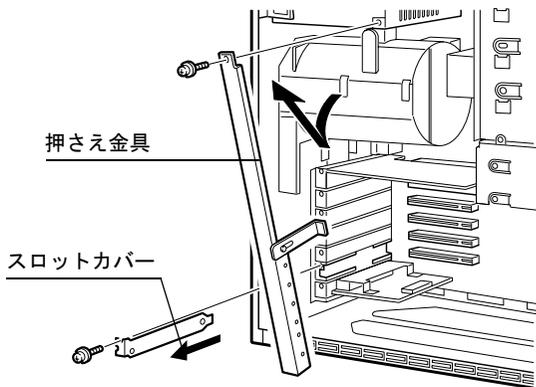
拡張カードの取り付け場所

本パソコンには、AGP 規格と PCI 規格のスロットがあります。AGP スロットには、ディスプレイカードが標準で取り付けられています。PCI カードは PCI スロット 1～5 のスロットに取り付けてください。IDE-RAID モデルの場合、PCI スロット 1 に IDE-RAID カードが取り付けられています。



拡張カードを取り付ける

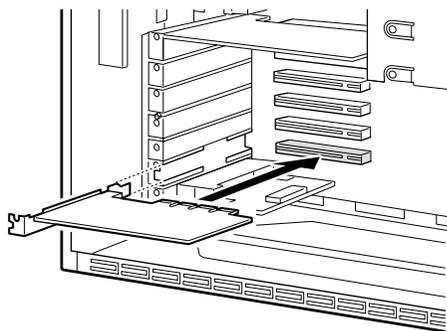
- 1 電源プラグをコンセントから抜きます。
- 2 サイドカバーを取り外します (→ P.41)。
- 3 スロットカバーと押さえ金具を取り外します。
ネジ (各 1ヶ所) を外し、スロットカバーと押さえ金具を取り外します。
押さえ金具は、一度斜めに倒してから取り外してください。



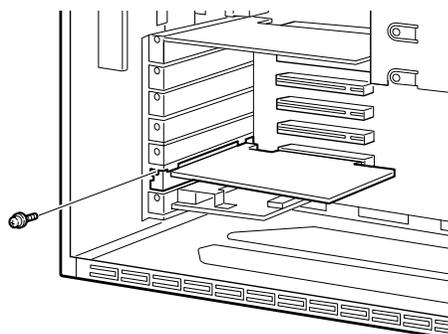
POINT

- ▶ 取り外したスロットカバーは大切に保管しておいてください。
拡張カードを取り外して使う際、パソコン内部にゴミが入らないよう取り付けます。

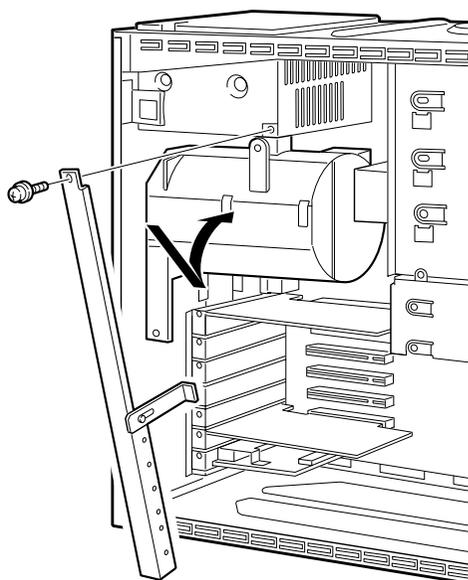
- 4** 拡張カードをコネクタに差し込みます。
拡張カードをコネクタにしっかりと差し込みます。



- 5** ネジで固定します。
手順3で取り外したネジ（1ヶ所）で拡張カードを固定します。



- 6** 押さえ金具を取り付けます。
斜めにして、下部の方から取り付けます。
手順3で取り外したネジ（1ヶ所）で固定します。



7 サイドカバーを取り付けます。

POINT

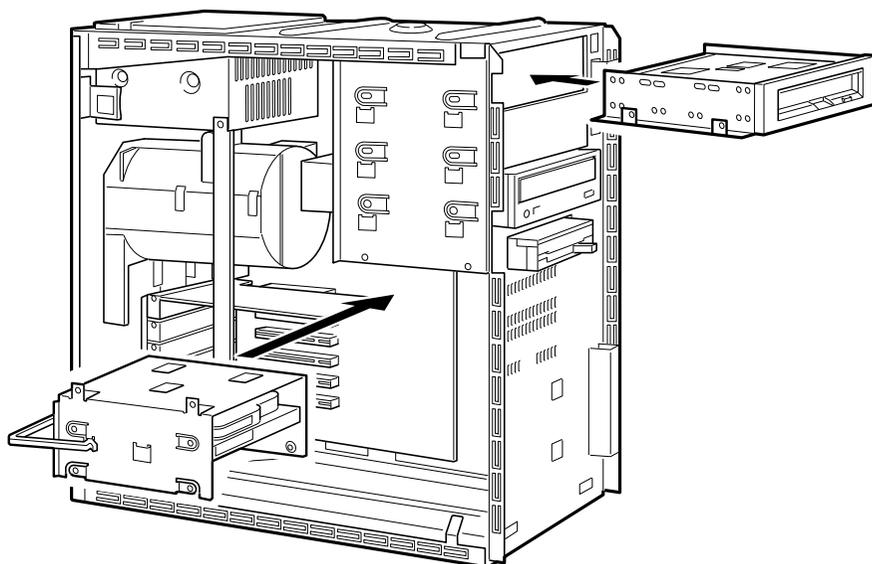
- ▶ 拡張カードの取り外しは、取り付ける手順を参照して行ってください。

5 内蔵オプションを取り付ける

内蔵ハードディスク、光磁気ディスクドライブ、CD-ROM ドライブなどの内蔵オプションを取り付ける方法を説明します。内蔵オプションは外付けタイプの機器と異なり、電源をパソコン本体からとるためコンセントを必要としません。また、省スペースというメリットもあります。

内蔵オプションの取り付け場所

内蔵オプションはパソコン本体内部の内蔵ハードディスクベイ（ハードディスクのみ）と、フロントアクセスベイに取り付けます。



⚠ 警告



感電

- 内蔵オプションの取り付けや取り外しを行う場合は、パソコン本体および接続されている装置の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。感電の原因となります。



感電

- 内蔵オプションを取り付ける場合は、弊社純正品をお使いください。感電・火災または故障の原因となることがあります。

⚠ 注意



- 内蔵オプションの取り付けや取り外しを行う場合は、指定された場所以外のネジは外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをすするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



- プリント板は、指定されている場所以外には手を触れないでください。
けがをすするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

注意事項

- ご購入後、内蔵オプションを取り付ける場合は、Windows のセットアップを行ってから、一度電源を切った後に取り付けを行ってください（→『取扱説明書』）。
- 内蔵ハードディスク（FMV-ID80H1 など）は、Ultra DMA/100 に設定できます。DMA の初期設定は、Windows NT モデルではチャンネル 0 が有効、チャンネル 1 が無効、Windows XP/2000/Me/98 モデルでは、標準搭載のハードディスクは Ultra DMA モード、CD-ROM ドライブは PIO モードになっています。
購入されたハードディスクが Ultra DMA をサポートしているかどうかは、ハードディスクの取扱説明書をご覧ください。
Ultra DMA をサポートしていないハードディスクユニットを接続するときは、必ず DMA の設定を OFF または無効の状態でお使いください。誤って DMA の設定を ON または有効にすると、正常に動作せず、データを損傷することがあります。
- Ultra DMA/100 をサポートしている内蔵ハードディスクユニットを Ultra DMA/100 で動作させる場合は、プライマリ IDE に取り付けてください。セカンダリ IDE に取り付けると、Ultra DMA/100 では動作せず、Ultra DMA/33 で動作します。
- ATAPI 規格の光磁気ディスクドライブは、1 台だけ取り付けすることができます。取り付けると、セカンダリ IDE に接続してください。
- IDE-RAID モデルでは、フロントアクセスベイを増設できません。
- 別売の内蔵ハードディスク（FMV-ID80H1 など）は、ご使用になる OS 等で制限事項があります。ハードディスクに添付の取扱説明書もあわせてご覧ください。

マスターとスレーブについて

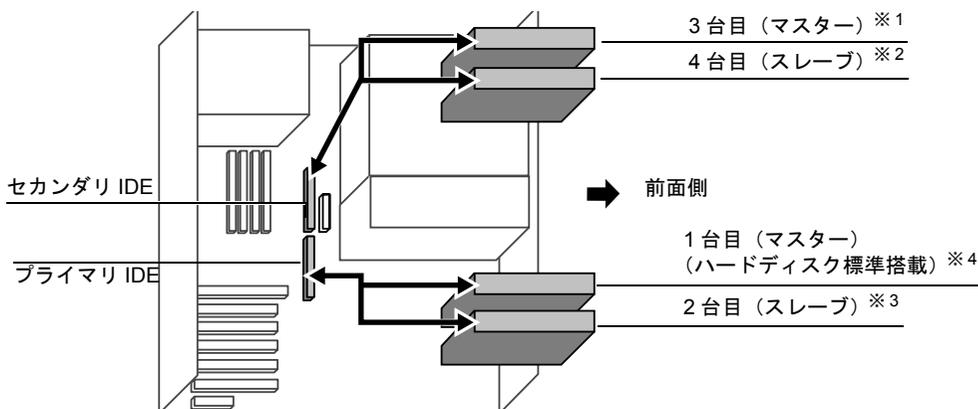
■ ベースモデルの場合

本パソコンは、IDE 規格のデバイスを最高 4 台内蔵できます。4 台のうち 1 台目および 2 台目は、プライマリ IDE のマスターとスレーブに取り付けます。残りの 3 台目および 4 台目は、セカンダリ IDE のマスターとスレーブに取り付けます。

このマスターとスレーブの設定は、内蔵 IDE デバイスをフラットケーブルにどのように接続するかによって決定されます（このような設定方法を、ケーブルセレクトといいます）。次図のフラットケーブルのマスターのコネクタを IDE デバイスに接続すると、マスターの設定になり、スレーブのコネクタを IDE デバイスに接続すると、スレーブの設定になります。

ケーブルセレクトを行うためには、内蔵 IDE デバイスのジャンプスイッチがケーブルセレクトの設定になっている必要があります。

また、ケーブルセレクトができない内蔵 IDE デバイスを接続する場合、マスターに接続するときは、IDE デバイスの設定をマスターの設定に、スレーブに接続するときは、IDE デバイスの設定をスレーブの設定にしてください。



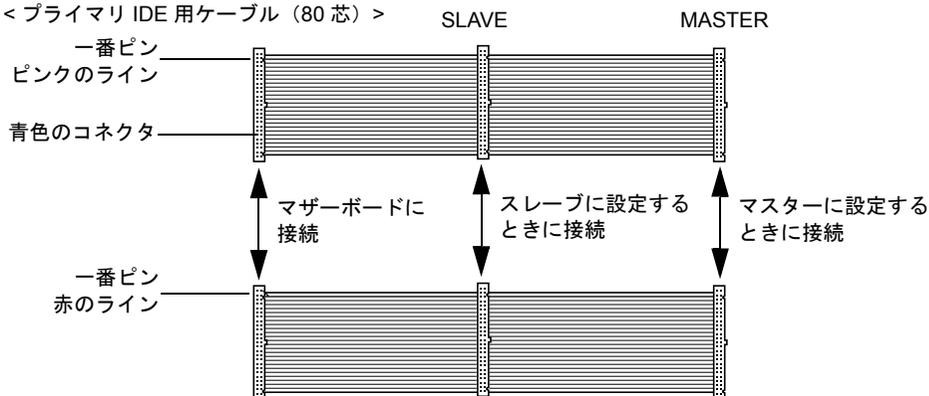
※1：CD-ROM ドライブを標準搭載、ただし、カスタムメイドで光磁気ディスクを選択している場合は光磁気ディスクドライブ搭載

※2：カスタムメイドで光磁気ディスクを選択している場合、CD-ROM ドライブ標準搭載

※3：内蔵ハードディスクベイには、ハードディスクのみ搭載可能

※4：カスタムメイドでHDD用フロントアクセスユニットを選択している場合、5インチフロントアクセスベイに搭載

< プライマリ IDE 用ケーブル (80 芯) >



< セカンダリ IDE 用ケーブル (40 芯) >

SLAVE MASTER

POINT

- ▶ 本パソコンでは、プライマリIDEに接続するケーブルとセカンダリIDEに接続するケーブルとは、芯数が異なります。プライマリIDEに接続するときは80芯ケーブルを、セカンダリIDEに接続するときは、40芯ケーブルをお使いください。
- ▶ 標準搭載されている内蔵IDEデバイスの出荷時の設定は、ケーブルセレクトに設定されています。
- ▶ OSを起動させるハードディスクは、必ずプライマリIDEコネクタにマスターとして接続してください。スレーブとして接続したり、セカンダリIDEコネクタに接続したりすると、OSを起動できない場合があります。
- ▶ セカンダリIDEの「マスター」、「スレーブ」の組み合わせについては、「フロントアクセスベイに取り付ける」(→P.63)をご覧ください。

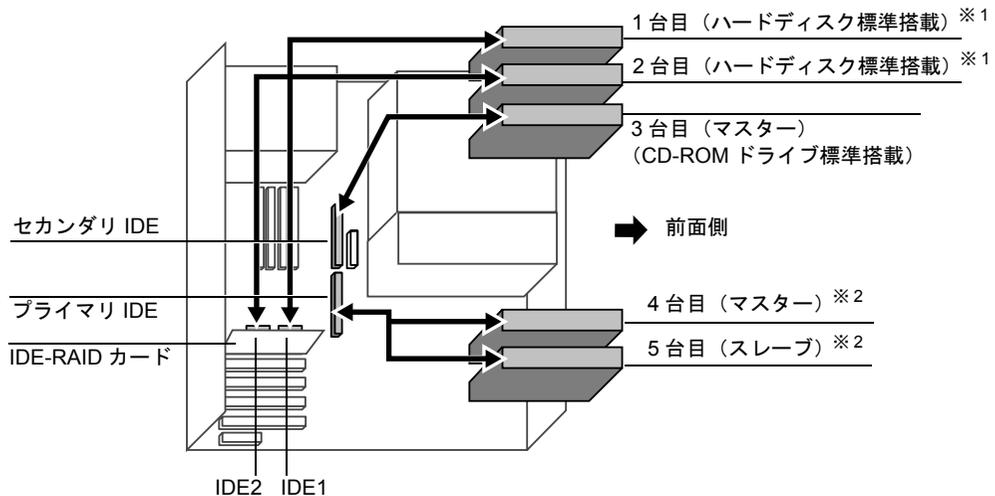
■ IDE-RAID モデルの場合

本パソコンは、IDE 規格のデバイスを最高 5 台内蔵できます。5 台のうち 1 台目および 2 台目（ハードディスク）は、IDE-RAID カードに取り付けます。3 台目（CD-ROM ドライブ）は、セカンダリ IDE のマスターに取り付けます。残りの 4 台目および 5 台目（ハードディスク）は、プライマリ IDE のマスターとスレーブに取り付けます。

このマスターとスレーブの設定は、内蔵 IDE デバイスをフラットケーブルにどのように接続するかによって決定されます（このような設定方法を、ケーブルセレクトといいます）。次図のフラットケーブルのマスターのコネクタを IDE デバイスに接続すると、マスターの設定になり、スレーブのコネクタを IDE デバイスに接続すると、スレーブの設定になります。

ケーブルセレクトを行うためには、内蔵 IDE デバイスのジャンプスイッチがケーブルセレクトの設定になっている必要があります。

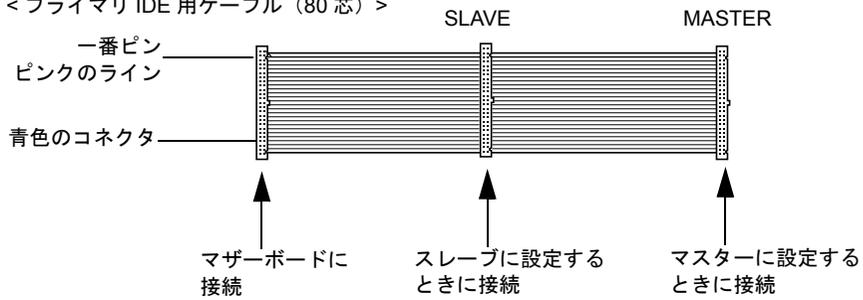
また、ケーブルセレクトができない内蔵 IDE デバイスを接続する場合、マスターに接続するときは、IDE デバイスの設定をマスターの設定に、スレーブに接続するときは、IDE デバイスの設定をスレーブの設定にしてください。



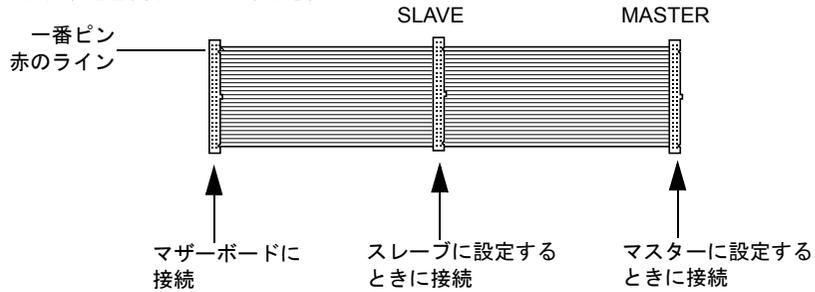
※1：同じ容量のハードディスクを取り付けます。また、2 台で 1 台のハードディスクとして取り扱われます。

※2：内蔵ハードディスクベイには、ハードディスクのみ搭載可能

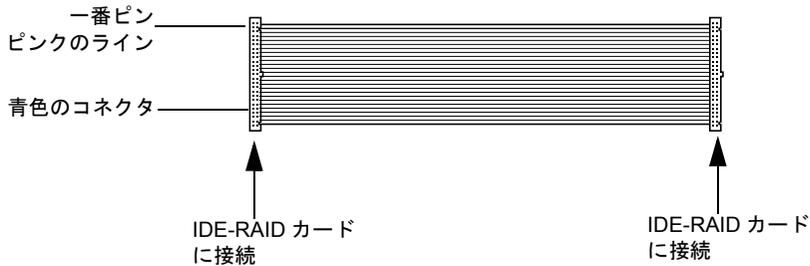
<プライマリ IDE 用ケーブル (80 芯)>



<セカンダリ IDE 用ケーブル (40 芯)>



<IDE-RAID カード用ケーブル (80 芯)>

**POINT**

- ▶ 本パソコンでは、プライマリIDEに接続するケーブルとセカンダリIDEに接続するケーブルとでは、芯数が異なります。プライマリIDEに接続するときは80芯ケーブルを、セカンダリIDEに接続するときは、40芯ケーブルをお使いください。
- ▶ 標準搭載されている内蔵IDEデバイスの出荷時の設定は、ケーブルセレクトに設定されています。
- ▶ OSを起動させるハードディスクは、必ずIDE-RAIDカードに接続するか(IDE-RAIDモデル)、プライマリIDEコネクタにマスターとして接続してください(IDE-RAIDモデル以外)。スレーブとして接続したり、セカンダリIDEコネクタに接続したりすると、OSを起動できない場合があります。

内蔵ハードディスクを取り付ける

標準搭載されている内蔵ハードディスク（1台目）を、より大容量のものに交換したり、2台目の内蔵ハードディスクを取り付けたりする方法を説明します。

■ 注意事項

故障の原因となりますので、次の点に注意してください。

- ハードディスクの内部では、情報を記録するディスクが高速に回転しながら、情報の読み書きを行っています。非常にデリケートな装置ですので、電源が入ったままの状態でも本パソコンを持ち運んだり、衝撃や振動を与えたりしないでください。
- 極端に温度変化が激しい場所での使用および保管は避けてください。
- 直射日光のあたる場所や発熱器具のそばには近づけないでください。
- 衝撃や振動の加わる場所での使用および保管は避けてください。
- 湿気やほこりの多い場所での使用および保管は避けてください。
- 磁石や強い磁界を発生する装置の近くでの使用および保管は避けてください。
- 分解したり、解体したりしないでください。
- 結露、または水滴がつかないようにしてください。

POINT

- ▶ 誤った取り扱いをすると、ディスク内のデータが破壊される場合があります。重要なデータは必ずバックアップを取っておいてください。
- ▶ 同一タイプのハードディスクでも若干の容量差があります。ハードディスク単位ではなくファイル単位、または区画単位でのバックアップをお勧めします。

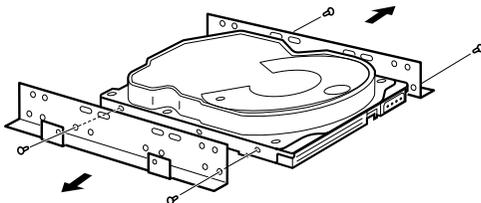
■ 内蔵ハードディスクベイに取り付ける

1 ジャンプスイッチの設定を行います。

1台目を取り付ける場合は、内蔵ハードディスクに添付のマニュアルをご覧になり、ジャンプスイッチがマスター、またはケーブルセレクトに設定されていることを確認してください。2台目を取り付ける場合は、ジャンプスイッチをスLEEP、またはケーブルセレクトに設定してください。

2 交換する（または取り付ける）内蔵ハードディスクの両側に金具がついている場合は、金具を取り外します。

ネジ（4ヶ所）を外して、取り外します。



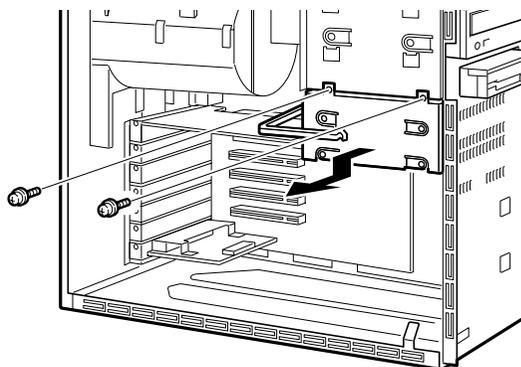
3 電源プラグをコンセントから抜きます。

4 サイドカバーを取り外します（→ P.41）。

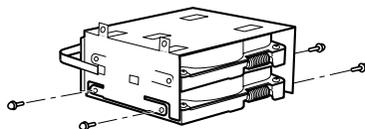
5 パソコン本体から取付金具を取り外します。

ネジ（2ヶ所）を外して、取り外します。

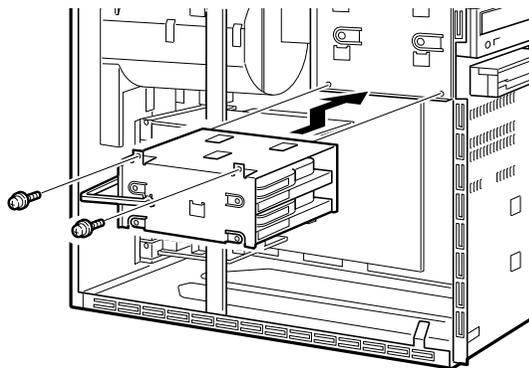
取付金具を取り外す際は、内蔵ハードディスクに接続されているフラットケーブルと、電源ケーブルも取り外します。

**6** 内蔵ハードディスクを交換します（または取り付けます）。

取り外した取付金具の側面のネジ（4ヶ所）を外し、交換する（または取り付け）内蔵ハードディスクを取付金具に取り付けます。

**7** 取付金具をパソコン本体に取り付けます。

手順5で外したネジ（2ヶ所）で固定します。

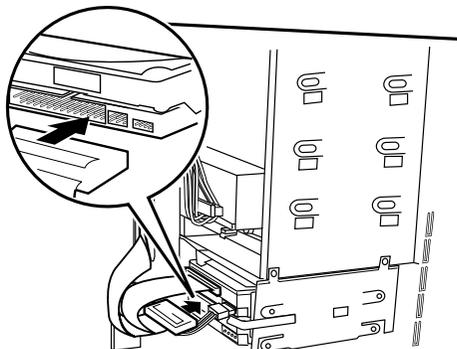


8 フラットケーブルを接続します。

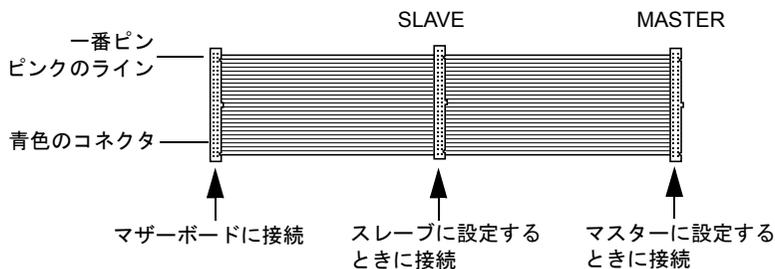
次図のプライマリ IDE 用ケーブルのコネクタ（次図の「マザーボードに接続」）がパソコン本体内部のプライマリ IDE コネクタに接続されています。

ベースモデルの場合、1 台目を交換するときは、プライマリ IDE 用ケーブルの MASTER のコネクタを、内蔵ハードディスクのコネクタに接続します。2 台目を取り付けるときは、1 台目のハードディスクに接続したプライマリ IDE 用ケーブルの SLAVE のコネクタを、内蔵ハードディスクのコネクタに接続します。

IDE-RAID モデルの場合、本パソコンに添付されているフラットケーブルを、プライマリ IDE コネクタに接続してお使いください。

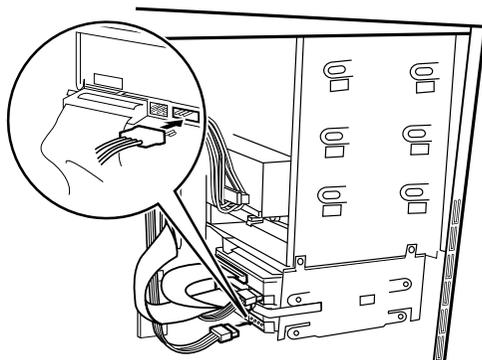


< プライマリ IDE 用ケーブル (80 芯) >



9 電源ケーブルを接続します。

パソコン本体内部の電源ケーブルのうち使っていないコネクタを、取り付けた内蔵ハードディスクに接続します。



10 サイドカバーを取り付けます。

11 BIOS セットアップで設定を行います。

1 台目を交換した場合は、BIOS セットアップの「Main」－「IDE Drive 1」で、2 台目を取り付けた場合は「IDE Drive 2」で、取り付けた内蔵ハードディスクのタイプを設定します（通常は「Auto」に設定）（→ P.75）。

POINT

- ▶ 内蔵オプションの取り外しは、取り付ける手順を参照して行ってください。
- ▶ 1 台目の内蔵ハードディスクを交換した後は、添付の「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」を使って、区画の設定を行いそれぞれの OS をインストールしてください（→『取扱説明書』）。
- ▶ 2 台目の内蔵ハードディスクを取り付けた後は、次の設定を行ってください。
 - ・ Windows XP モデルの場合
ハードディスクを取り付けた場合、「ディスクの管理」で区画を設定し、フォーマットしてください。「ディスクの管理」は、「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」→「管理ツール」→「コンピュータの管理」で表示される「記憶域」の下にあります。
 - ・ Windows 2000 モデルの場合
「ディスクの管理」で区画を設定し、フォーマットしてください。「ディスクの管理」は、「スタート」ボタン→「プログラム」→「コンピュータの管理」で表示される「記憶域」の下にあります。
 - ・ Windows NT モデルの場合
「ディスクアドミニストレータ」で区画の設定をし、ハードディスクをフォーマットしてください。「ディスクアドミニストレータ」は、「スタート」ボタン→「プログラム」→「管理ツール（共通）」の順で表示できます。
 - ・ Windows Me/98 モデルの場合
ハードディスクを取り付けた場合は、「スタート」メニューから MS-DOS プロンプトで FDISK コマンドを使って、区画の設定を行ってください。区画の設定後、取り付けたハードディスクを「マイコンピュータ」でフォーマットしてください。
フォーマットが終わりましたら専用のドライバをインストールする必要があります（→『取扱説明書』）。
- ▶ IDE-RAID モデルの場合、ハードディスクを増設すると、はじめから搭載されているハードディスクのドライブ名が変わることがあります。ハードディスクを増設する前に「ディスクアドミニストレータ」（Windows NT）または「ディスクの管理」（Windows XP/2000）で、はじめから搭載されているハードディスクの区画のドライブ文字を割り当ててください。

■ フロントアクセスベイに取り付ける

ハードディスクをフロントアクセスベイに取り付ける場合は、「その他の内蔵オプションを取り付ける」(→P.63)をご覧ください。

POINT

- ▶ 1 台目の内蔵ハードディスクを交換した後は、添付の「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」を使って、区画の設定を行いそれぞれの OS をインストールしてください(→『取扱説明書』)。
- ▶ 2 台目の内蔵ハードディスクを取り付けた後は、次の設定を行ってください。
 - ・ Windows XP モデルの場合
ハードディスクを取り付けた場合、「ディスクの管理」で区画を設定し、フォーマットしてください。「ディスクの管理」は、「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」→「管理ツール」→「コンピュータの管理」で表示される「記憶域」の下にあります。
 - ・ Windows 2000 モデルの場合
「ディスクの管理」で区画を設定し、フォーマットしてください。「ディスクの管理」は、「スタート」ボタン→「プログラム」→「コンピュータの管理」で表示される「記憶域」の下にあります。
 - ・ Windows NT モデルの場合
「ディスクアドミニストレータ」で区画の設定をし、ハードディスクをフォーマットしてください。「ディスクアドミニストレータ」は、「スタート」ボタン→「プログラム」→「管理ツール (共通)」の順で表示できます。
 - ・ Windows Me/98 モデルの場合
ハードディスクを取り付けた場合は、「スタート」メニューから MS-DOS プロンプトで FDISK コマンドを使って、区画の設定を行ってください。区画の設定後、取り付けたハードディスクを「マイコンピュータ」でフォーマットしてください。

■ IDE-RAID モデルのハードディスクを交換する

IDE-RAID モデルのハードディスクを交換する方法は、次のとおりです。

POINT

- ▶ 交換するための新しいハードディスクは、交換するハードディスクと同容量・同種類の、指定されたハードディスクをご用意ください。
- ▶ 本モデル付属の IDE ケーブル以外の IDE ケーブルを接続しないでください。
- ▶ ハードディスクを交換する際は、『フロントアクセス用 HDD アダプタ取扱説明書』をあわせてご覧ください。

1 電源プラグをコンセントから抜きます。

2 交換するハードディスク側のフロントアクセスユニットの鍵を開け、HDD アダプタを引き出します。

交換するハードディスクのチャンネル番号とパソコン本体に実際に搭載されている位置を間違えないよう作業を行ってください。

IDE-RAID カードの IDE チャンネル	ハードディスク搭載位置
チャンネル 1 (IDE1)	フロントアクセスユニット上段
チャンネル 2 (IDE2)	フロントアクセスユニット下段

3 HDD アダプタの両側面の固定ネジ 4 箇所をはずしてください。

- 4 ふたを開け交換するハードディスクを取り外してください。
HDD アダプタのふたは、ハンドルを引いたまま“OPEN”と刻印されている側のツメをはずし、ふたをスライドさせることによって開けられます。
- 5 新しいハードディスクのジャンパ設定を「Cable-Select」にしてください。
- 6 新しいハードディスクをHDDアダプタに取り付け、ネジで側面の4箇所を固定し、ふたを閉じてください。
- 7 HDDアダプタをフロントアクセスユニットに取り付け、鍵を閉めます。

その他の内蔵オプションを取り付ける

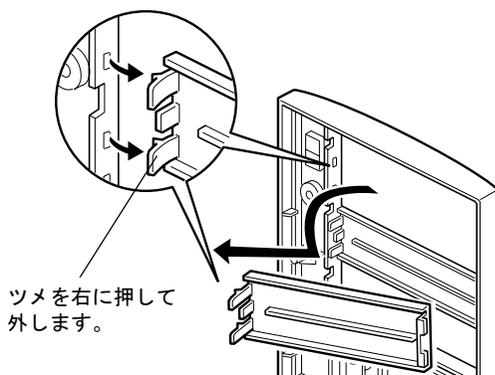
■ フロントアクセスベイに取り付ける

内蔵ハードディスク、CD-ROM ドライブなどの内蔵オプションを取り付ける方法は、次のとおりです。

POINT

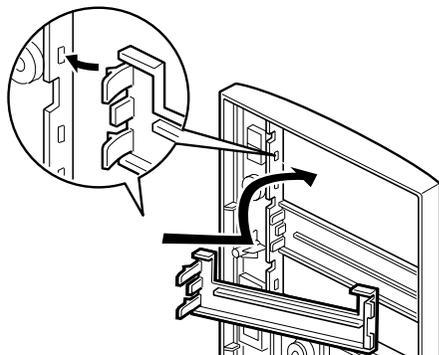
- ▶ 内蔵 SCSI オプションを取り付ける場合は、SCSI カードが必要です。あらかじめ取り付けておいてください。
- ▶ 内蔵 SCSI オプションを取り付ける場合、SCSI ID を設定する必要があります。内蔵 SCSI オプションに添付のマニュアルをご覧ください。他の SCSI オプションと重複しない SCSI ID を設定しておいてください。
- ▶ 内蔵 IDE オプションを取り付ける場合、あらかじめマスター/スレーブ/ケーブルセレクトの設定を行ってください。
- ▶ IDE-RAID モデルの場合、内蔵オプションを取り付けることはできません。

- 1 電源プラグをコンセントから抜きます。
- 2 サイドカバー、アッパーカバー、フロントパネルを取り外します（→ P.41）。
- 3 フロントパネルからかくしパネルを取り外します。
必要に応じて、フロントパネルの裏側からかくしパネルを図の矢印のように取り外します。
内蔵ハードディスクを取り付ける場合、かくしパネルを取り外す必要はありません。

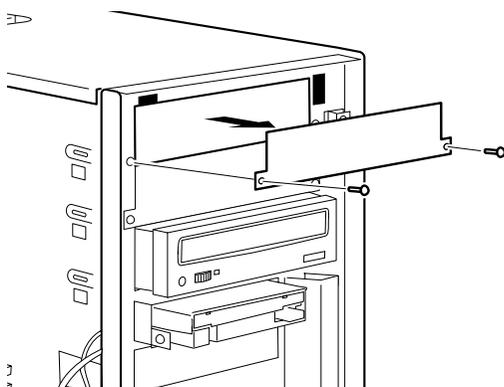


POINT

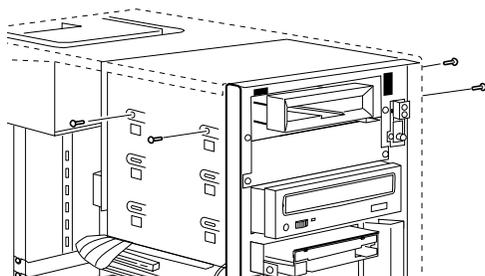
- ▶ 光磁気ディスクドライブを取り付ける場合は、添付のフロントアクセスベイパネルをフロントパネルに取り付けてください。



- 4** パソコン本体からかくし板を取り外します。
ネジ（2ヶ所）を外して取り外します。



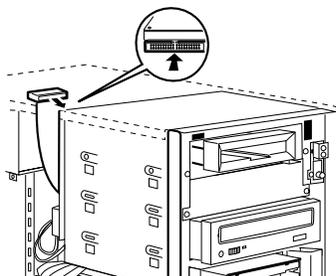
- 5** 内蔵オプションをパソコン本体に取り付けます。
内蔵ハードディスク以外の内蔵オプションは、機器の前面がフロントパネルの面と揃う位置に取り付けます。
位置が決まったら、ネジ（4ヶ所）で固定します。
内蔵ハードディスクを取り付けるときは、再度、かくし板を取り付けてください。



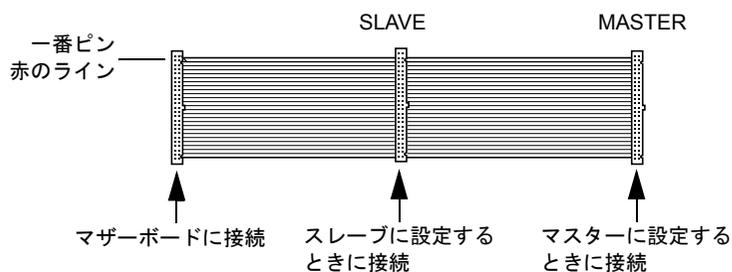
6 フラットケーブルを接続します。

- ・ IDE 規格の内蔵オプションを取り付ける場合

下図のセカンダリ IDE 用ケーブルの「マザーボードに接続」のコネクタが、パソコン本体内部のセカンダリ IDE コネクタに接続されています。



<セカンダリ IDE 用ケーブル (40 芯)>

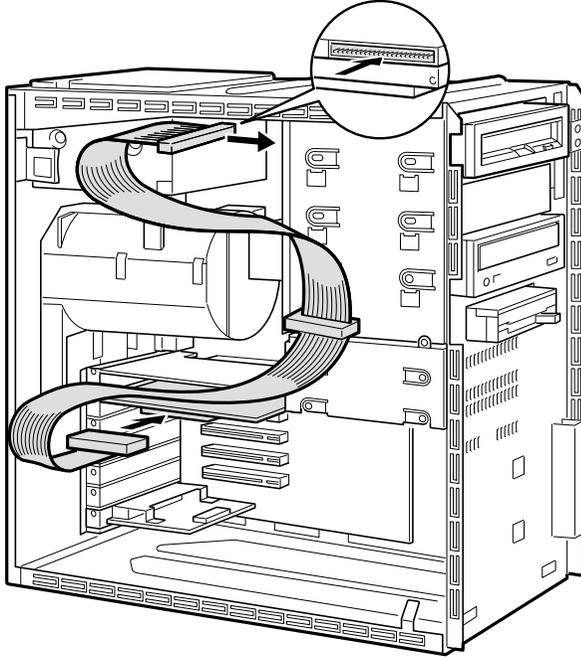


マスターとスレーブのコネクタには、次の組み合わせで内蔵オプションを接続してください。

	マスター	スレーブ
CD-ROM のみ	CD-ROM	—
ハードディスク + CD-ROM	ハードディスク	CD-ROM
光磁気ディスク + CD-ROM	光磁気ディスク	CD-ROM

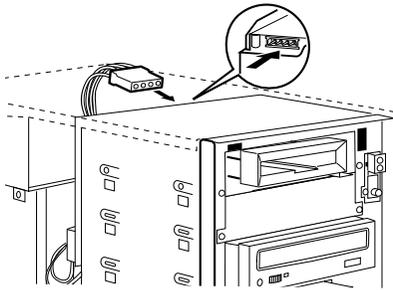
・ SCSI 規格の内蔵オプションを取り付ける場合

SCSI カード用フラットケーブルの片方のコネクタを、内蔵 SCSI オプションのコネクタに接続します。もう片方のコネクタを、拡張スロットに取り付けた SCSI カードのコネクタに接続します。



7 電源ケーブルを接続します。

使っていない電源ケーブルを、取り付けた内蔵オプションのコネクタに接続します。



8 フロントパネル、アッパーカバー、サイドカバーを取り付けます。

9 BIOS セットアップで設定を行います。

IDE 規格の内蔵オプションを取り付けた場合、BIOS セットアップの「Main」－「IDE Drive 3」、「IDE Drive 4」でタイプを設定します（通常は「Auto」に設定）（→ P.75）。

POINT

- ▶ 取り外しは、取り付ける手順を参照して行ってください。
- ▶ ハードディスクや光磁気ディスクドライブを取り付けた後は、次の設定を行ってください。
 - ・ Windows XP モデルの場合

ハードディスクを取り付けた場合、「ディスクの管理」で区画を設定し、フォーマットしてください。「ディスクの管理」は、「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」→「管理ツール」→「コンピュータの管理」で表示される「記憶域」の下にあります。

光磁気ディスクを取り付けた場合、フォーマットしてください。「マイコンピュータ」の「リムーバブルディスク」を右クリックし、「フォーマット」をクリックします。なお、「ファイルシステム」は NTFS 以外を選択してください。
 - ・ Windows 2000 モデルの場合

ハードディスクを取り付けた場合、「ディスクの管理」で区画を設定し、フォーマットしてください。「ディスクの管理」は、「スタート」ボタン→「プログラム」→「コンピュータの管理」で表示される「記憶域」の下にあります。

光磁気ディスクを取り付けた場合、MO ディスクフォーマッタでフォーマットしてください。MO ディスクフォーマッタは、「スタート」ボタン→「プログラム」→「MO Utilities」の順で表示できます。
 - ・ Windows NT モデルの場合

ハードディスクを取り付けた場合、「ディスクアドミニストレータ」で区画を設定し、フォーマットしてください。「ディスクアドミニストレータ」は、「スタート」ボタン→「プログラム」→「管理ツール」の順で表示できます。

光磁気ディスクを取り付けた場合、MO ディスクフォーマッタで区画を設定し、フォーマットしてください。MO ディスクフォーマッタは、「スタート」ボタン→「プログラム」→「MO Utilities」の順で表示できます。
 - ・ Windows Me/98 モデルの場合

ハードディスクを取り付けた場合は、「スタート」メニューから MS-DOS プロンプトで FDISK コマンドを使って、区画の設定を行ってください。区画の設定後、取り付けたハードディスクを「マイコンピュータ」でフォーマットしてください。

光磁気ディスクを取り付けた場合、MO ディスクフォーマッタでフォーマットしてください。MO ディスクフォーマッタは、ドライバーズ CD からインストールしてください。インストール方法は、ドライバーズ CD の「¥Other¥Mo¥Readme.txt」をご覧ください。

なお、Windows 98 でフォーマットした光磁気ディスクは、その他の OS（MS-DOS や Windows NT など）では、お使いになれない場合があります。
- ▶ 取り外した金具などは、大切に保管しておいてください。

Memo

第 4 章

BIOS

4

BIOS セットアップというプログラムについて説明しています。また、本パソコンのデータを守るためにパスワードを設定する方法について説明しています。なお、BIOS セットアップの仕様は、改善のため予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

1 BIOS セットアップとは	70
2 BIOS セットアップの操作のしかた	71
3 メニュー詳細	74
4 BIOS のパスワード機能を使う	97
5 BIOS が表示するメッセージ一覧	101

1 BIOS セットアップとは

BIOS セットアップはメモリやハードディスク、フロッピーディスクドライブなどのハードウェアの環境を設定するためのプログラムです。

本パソコンでは、必要最小限の設定はご購入時にすでに行われています。

次の場合などで設定を行う必要があります。

- 特定の人だけが本パソコンを利用できるように、本パソコンにパスワード（暗証番号）を設定するとき
- リソースの設定を変更するとき
- 省電力モード（電源を入れた状態で一定時間使用しなかったときに、消費する電力を減らして待機している状態）を解除、または変更するとき
- 自己診断中に BIOS セットアップを促すメッセージが表示されたとき
- 他の OS をお使いになるとき

POINT

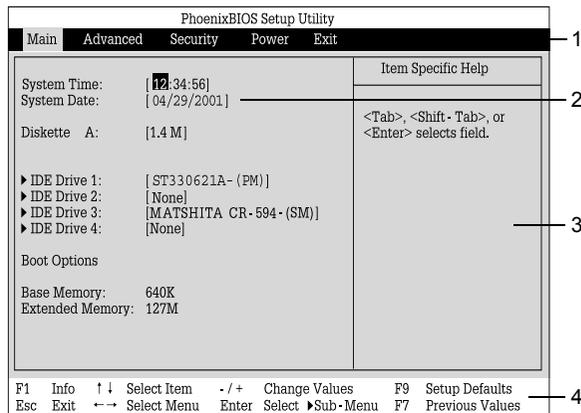
- ▶ BIOS セットアップで設定した内容は、パソコン本体内部の CMOS RAM と呼ばれるメモリに記録されます。この CMOS RAM は、記録した内容をバッテリーによって保存しています。BIOS セットアップを正しく行っても、電源を入れたとき、または再起動したときに、BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示される場合は、この CMOS RAM に設定内容が保存されていない可能性があります。バッテリーの消耗が考えられますので、「富士通 パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

2 BIOS セットアップの操作のしかた

BIOS セットアップを起動する

- 1 作業を終了してデータを保存します。
- 2 本パソコンを再起動します。
 - ・ Windows XP モデルの場合は、「スタート」ボタン→「終了オプション」→「再起動」の順にクリックします。
 - ・ Windows 2000 モデルの場合は、「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックし、「再起動」を選択して、「OK」をクリックします。
 - ・ Windows NT モデルの場合は、「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックし、「コンピュータを再起動する」をクリックして、「はい」をクリックします。
 - ・ Windows Me モデルの場合は、「スタート」ボタン→「Windows の終了」の順にクリックし、「再起動」を選択して、「OK」をクリックします。
 - ・ Windows 98 モデルの場合は、「スタート」ボタン→「Windows の終了」の順にクリックし、「再起動する」をクリックして、「OK」をクリックします。
- 3 画面下に「<F2>BIOS Setup/<F12>Boot Menu」と表示されたら、【F2】キーを押します。

BIOS セットアップ画面が表示されます。



機種や装置により、表示が異なる場合があります。

1. メニューバー
メニューの名称が表示されます。
2. 設定フィールド
各メニューで設定する、項目と設定値が表示されます。
3. ヘルプフィールド
カーソルを合わせた項目の説明が表示されます。
4. キー一覧
設定時に使うキーの一覧です。

設定を変更する

BIOS セットアップは、キーボードを使ってすべての操作を行います。

- 1** 【←】【→】キーを押して、設定を変更したいメニューにカーソルを合わせます。
- 2** 【↑】【↓】キーを押して、設定を変更したい項目にカーソルを合わせます。
 - ▶の付いている項目はサブメニューがあることを表します。
 - ▶の付いている項目にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。
- 3** 【+】【-】【space】キーを押して、設定を変更します。
 - さらに他のメニューの設定を変更したいときは、手順1から繰り返します。
 - サブメニューを表示していた場合は、【Esc】キーを押すと1つ前の画面に戻ります。

BIOS セットアップを終了するときには、「BIOS セットアップを終了する」(→ P.73)をご覧ください。

各キーの役割

BIOS セットアップで使うキーの役割は次のとおりです。

キー	役割
【F1】キー	System Information (システム情報) を表示します。【Esc】キーで、セットアップ画面に戻ります。
【←】【→】キー	メニューを切り替えます。
【↑】【↓】キー	設定する項目にカーソルを移動します。
【+】【-】【space】キー	希望する設定値を選択します。
【F7】キー	変更前の設定値を読み込み、変更を取り消します。
【F9】キー	設定値を本パソコンの標準状態に戻します。
【Esc】キー	終了メニューを表示します。サブメニューを表示していた場合は、ひとつ前の画面に戻ります。
【Enter】キー	▶が付いた項目のサブメニューを表示します。サブメニューが表示された状態で【Esc】キーを押すと、メニューに戻ります。
【Tab】キー	時刻や日付の設定時に時、分、秒の間でカーソルを移動します。

BIOS セットアップを終了する

- 1** 【←】【→】 キーを押して、「Exit」メニューにカーソルを合わせます。
- 2** 【↑】【↓】 キーを押して、終了方法を選び、【Enter】 キーを押します。
終了方法については、「Exit メニュー」（→ P.92）をご覧ください。
- 3** 【←】【→】 キーを押して、「Yes」にカーソルを合わせ、【Enter】 キーを押します。
BIOS セットアップが終了します。

3 メニュー詳細

BIOS セットアップの個々のメニューを説明します。

重要

- ▶ 各設定の標準設定値をアンダーラインで表記しています。
- ▶ お使いになるモデルによっては、ご購入時の設定が標準設定値と異なる場合があります。この場合、ご購入時の設定を「(初期値 : Windows × ×モデル)」で表記しています。
- ▶ BIOS セットアップのメニューは、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

Main メニュー

Main メニューでは、日時やドライブなどの設定を行います。

■ 設定項目の詳細

System Time

現在の時刻を、時 : 分 : 秒で設定します (24 時間制)。キーボードから数値を入力します。

【Tab】キー、【Enter】キーで右の項目に移動します。

- ・ 00:00:00 ~ 23:59:59

System Date

現在の日付を、月 / 日 / 年で設定します。キーボードから数値を入力します。【Tab】キー、

【Enter】キーで右の項目に移動します。

- ・ 01/01/1981 ~ 12/31/2099

POINT

- ▶ 「System Time」、「System Date」は一度合わせれば電源を入れるたびに設定する必要はありません。入力した数値を修正するときは、【Back space】キーを押して、再度入力してください。

Diskette A

フロッピーディスクドライブのタイプを設定します。

- ・ None、360K、1.2M、720K、1.4M

POINT

- ▶ 本パソコンでは、1.44/1.2MB 3.5" フロッピーディスクドライブが搭載されています。1.4M 以外の設定では、正常に動作しません。

□ IDE Drive 1/2/3/4

サブメニューを使用して、接続した IDE デバイスのタイプと動作モードを設定します。カーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

- **Type** … IDE デバイスのタイプを設定します。
 - ・ **Auto** : 本パソコンが IDE デバイスのタイプを自動的に認識します。IDE デバイスの各種設定を自分で行わない場合を選択します。
 - ・ **None** : IDE デバイスを使用しない場合を選択します。
 - ・ **Diskette 120M / ZIP** : スーパーディスクドライブまたは ZIP ドライブを接続した場合に選択します。
 - ・ **CD-ROM** : CD-ROM ドライブを接続した場合に選択します。
 - ・ **Other ATAPI** : その他の ATAPI デバイスを接続した場合に選択します。
 - ・ **User** : ハードディスクドライブの詳細設定を行う場合を選択します。

POINT

- ▶ タイプの設定を変更する場合は、【space】キーで選択してください。
 - ▶ 通常は「Auto」に設定して使用してください。「Auto」以外の設定にする場合は、デバイスがサポートしている正しい値に設定してください。正しく設定されていないとデバイスに正常にアクセスできない場合があります。設定前にデバイスに添付されているマニュアルをご覧ください。
- **Cylinders** … ディスクのシリンダ数を設定します。「Type」を「User」に設定した場合のみ変更可能です。「Type」を「Auto」に設定した場合は、本パソコンが検出した内容を表示します。
 - ・ 0 ~ 65535
- **Heads** … ディスクのヘッド数を設定します。「Type」を「User」に設定した場合のみ変更可能です。「Type」を「Auto」に設定した場合は、本パソコンが検出した内容を表示します。
 - ・ 1 ~ 16
- **Sectors/Track** … ディスクのセクタ数を設定します。「Type」を「User」に設定した場合のみ変更可能です。「Type」を「Auto」に設定した場合は、本パソコンが検出した内容を表示します。
 - ・ 0 ~ 63
- **Capacity (CHS/LBA)** … 本パソコンが検出したディスクの最大容量を表示します。「Type」を「Auto」または「User」に設定した場合に表示されます。
- **Transfer Mode** … マルチセクタ転送の最大セクタ数を設定します。「Type」を「Auto」に設定した場合は、本パソコンが検出した内容を表示します。「Type」を「Auto」、「None」以外に設定した場合は、一括転送できるセクタ数を設定します。セクタ数が多いほど、ディスクアクセスが高速になります。
 - ・ **Disabled** : 1セクタずつ転送します。マルチセクタ転送をサポートしていないディスクの場合に選択します。
 - ・ **2 Sectors、4 Sectors、8 Sectors、16 Sectors** : 一括転送するセクタ数を設定します。
- **LBA Translation** … LBA (Logical Block Addressing : 論理的な通し番号によるアクセス) を有効にするかどうかの設定をします。「Type」を「Auto」に設定した場合、自動的に最適なモードが表示されます。「Type」を「Auto」、「None」以外に設定した場合に設定します。
 - ・ **Disabled** : 無効にします。
 - ・ **Enabled** : 有効にします。
- **LBA Translation Mode** … BIOS 版数によっては本項目が表示されますが、設定は変更せず、「LBA」のままご使用ください。

- **PIO Mode** … デバイスホスト間のデータ転送モードを設定します。「Type」を「Auto」に設定した場合、自動的に最適なモードが表示されます。「Type」を「Auto」、「None」以外に設定した場合に設定します。
 - ・ **Standard** : 最も基本的なデータ転送モードに設定します。
 - ・ **PIO 1、PIO 2、PIO 3、PIO 4** : データ転送モードを高速 PIO 転送にします。DMA 転送は使用しません。数値が大きくなるほど転送速度が上がります。
 - ・ **PIO 3 / DMA 1、PIO 4 / DMA 2** : データ転送モードを高速 PIO/DMA に設定し、マルチワード DMA 転送モードを使えるようにします。数値が大きくなるほど転送速度が上がります。
 - ・ **PIO 4 / UDMA 16、PIO 4 / UDMA 25、PIO 4 / UDMA 33、PIO 4 / UDMA 44、PIO 4 / UDMA 66、PIO 4 / UDMA 100** : データ転送モードを高速 PIO/DMA に設定し、ウルトラ DMA 転送モードを使えるようにします。数値が大きくなるほど転送速度が上がります。

 **POINT**

- ▶ 「Standard」以外の設定値を選択して高速な転送を行うには、各転送モードに対応したデバイスが必要です。
- ▶ セカンダリ IDE (IDE3/4) は、UDMA44、UDMA66、UDMA100 を使えません。

- **32 Bit I/O** … PIO データ転送を 32 ビットで行うかどうかを設定します。
 - ・ **Disabled** : 行いません。
 - ・ **Enabled** : 行います。
- **Hard Disk Silent Mode** … IDE ハードディスクの回転数を制御して、モーター音を抑えるかどうかを設定します。
 - ・ **Disabled** : モーター音を抑えません。
 - ・ **Enabled** : 最小限のモーター音に抑えます。

 **POINT**

- ▶ 「Enabled」に設定すると、システムの性能が低下しますので、ご注意ください。

- **HD-ID** … 接続されているハードディスクのハードディスク ID を 10 桁の数字で表示します。

Boot Options

サブメニューを使って、起動ドライブの優先順位を設定します。

カーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

- **POST Errors** … 自己診断 (POST) 中に BIOS がエラーを検出したとき、エラーを表示して、停止するかどうかを設定します。
 - ・ **No Halt On Any Errors** : エラーを無視して、起動します。
 - ・ **Halt On All Errors** : エラーを表示して、停止します。
- **Fast Boot** … 自己診断 (POST) を簡略化して、起動時間を短くするかどうかを設定します。
 - ・ **Disabled** : 起動時間を短くしません。
 - ・ **Enabled** : 起動時間を短くします。

 **POINT**

- ▶ 起動時に POST でエラーが発生した場合、次回起動時は起動時間を短くしません。

- **Quiet Boot** …本パソコンの起動時または再起動時に自己診断（POST）画面を表示するかどうかを設定します。
 - ・ **Disabled** : 起動時または再起動時に自己診断（POST）画面を表示します。
 - ・ **Enabled** : 起動時または再起動時に「FUJITSU」ロゴを表示します。

POINT

- ▶ 「FUJITSU」ロゴ表示中に【Esc】キーを押すと自己診断画面に切り替わります。
 - ▶ 拡張カード上の BIOS メッセージを確認したい場合は、「Disabled」に設定してください。
 - ▶ IDE-RAID モデルの場合、「Disabled」に設定してください。
- **Primary Display**…プライマリディスプレイになるビデオデバイスを選択します。
 - ・ **AGP VGA** : AGP スロットのディスプレイデバイスをプライマリディスプレイにします。
 - ・ **PCI VGA** : PCI スロット 1、2、3、4、5、AGP スロットの順にプライマリディスプレイを自動的に選択します。
 - **Boot Menu**…本パソコンの起動時または再起動時に、【F12】キーを押すことによって、Boot Menu（起動デバイスを選択するメニュー）を表示するかどうかを設定します。
 - ・ **Disabled** : Boot Menu を表示しません。
 - ・ **Enabled** : Boot Menu を表示します。
 - **Boot Sequence** … OS を読み込むデバイスの優先順位を設定します。
 【↑】【↓】キーを使って優先順位を変更したいデバイスを選択し、【+】を押すと上側に、【-】キーを押すと下側にそれぞれ項目が移動して優先順位が変更されます。
 各項目の詳細は次のとおりです。
 - ・ **+Diskette** : フロッピーディスクから起動します。本項目にカーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、設定可能なデバイス名が表示されます。【↑】【↓】キーを使って優先順位を変更したいデバイスを選択し、【+】を押すと上側に、【-】キーを押すと下側にそれぞれ項目が移動して優先順位が変更されます。
 各デバイスの意味は次のとおりです。
 - ・ **Standard** : 本パソコンに内蔵のフロッピーディスクを示します。
 - ・ **FUJITSU MCE3130AP-(SM)**（例）: ATAPI Removable デバイスを接続した場合に、そのデバイス名が表示されます。
 - ・ **+Hard Drive** : ハードディスクから起動します。本項目にカーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、設定可能なデバイス名が表示されます。【↑】【↓】キーを使って優先順位を変更したいデバイスを選択し、【+】を押すと上側に、【-】キーを押すと下側にそれぞれ項目が移動して優先順位が変更されます。
 各デバイスの意味は次のとおりです。
 - ・ **ST330621A-(PM)**（例）: 接続されている内蔵 IDE ハードディスク名が表示されます。末尾の（PM）、（PS）、（SM）、（SS）はハードディスクが接続されている場所を示します。
 （PM） : プライマリマスター
 （PS） : プライマリスレーブ
 （SM） : セカンダリマスター
 （SS） : セカンダリスレーブ
 - ・ **FastTrak RAID Controller** : IDE-RAID カードに接続されたハードディスクを選択します。IDE-RAID モデルの場合に表示されます。
 - ・ **Alternate Device** : SCSI カードに接続されているデバイスなど、内蔵 IDE デバイス以外のハードディスクを選択します。
 IDE-RAID モデルでハードディスクを増設している場合、優先順位の最初には、はじめに起動させたい OS がインストールされているハードディスクを選択してください。

- ・ CD-ROM Drive : CD-ROM から起動します。
- ・ Legacy LAN Card : Legacy のネットワークブートデバイスから起動します。
- ・ Boot Manage UNDI, PXE-2.0 : 本パソコンに内蔵の LAN コントローラ (PXE2.0) から起動します。「LAN Remote Boot」を「PXE」に設定し、再起動すると表示されます。

POINT

- ▶ CD-ROM から起動するにはブート可能な CD-ROM が必要となります。再起動前に CD-ROM ドライブに CD-ROM をセットしてください。
- ▶ 【↑】【↓】キーを使ってデバイスを選択し、【space】キーを押すと「!」マークが表示され、このデバイスから起動しなくなります。
- ▶ デバイスを取り外すと、Diskette または Hard Drive の欄に、「!」マークの付いたデバイス名が表示されます。動作上問題はありませんが、削除したい場合は、そのデバイス名を選択し、【*】キーを押してください。

Base Memory

コンベンショナルメモリの容量を表示します。

Extended Memory

本パソコンに搭載している拡張メモリの容量を表示します。実際に搭載されているメモリの容量より、1MB 少なく表示されます。

Advanced メニュー

Advanced メニューでは、デバイスの設定などを行います。

■ 設定項目の詳細

□ Peripheral Configuration

サブメニューを使って、内蔵デバイスに関する設定を行います。

カーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

- Serial 1 … シリアルポート 1 の I/O ポートアドレス、割り込み要求を設定します。
 - ・ Disabled : シリアルポート 1 を使用禁止にします。
 - ・ Enabled : I/O ポートアドレスと割り込み要求を設定することによって、シリアルポート 1 を使用可能にします。
 - ・ Auto : BIOS または OS が自動的に I/O ポートアドレスと割り込み要求を設定します。
 - ・ OS Controlled : OS が自動的に I/O ポートアドレスと割り込み要求を設定します。

POINT

- ▶ Windows XP/2000/Me/98 でシリアルポートを使用不可にする場合は、Windows のデバイスマネージャで使用不可にしてください。

- Serial 1 Address … 「Serial1」を「Enabled」に設定したときの、I/O ポートアドレスと割り込み要求を設定します。「Serial 1」を「Enabled」に設定した場合に表示されます。
 - ・ 3F8h,IRQ 4、2F8h,IRQ 3、3E8h,IRQ 4、2E8h,IRQ 3
- Serial 2 … シリアルポート 2 の I/O ポートアドレス、割り込み要求を設定します。
 - ・ Disabled : シリアルポート 2 を使用禁止にします。
 - ・ Enabled : I/O ポートアドレスと割り込み要求を設定することによって、シリアルポート 2 を使用可能にします。
 - ・ Auto : BIOS または OS が自動的に I/O ポートアドレスと割り込み要求を設定します。
 - ・ OS Controlled : OS が自動的に I/O ポートアドレスと割り込み要求を設定します。

POINT

- ▶ Windows XP/2000/Me/98 でシリアルポートを使用不可にする場合は、Windows のデバイスマネージャで使用不可にしてください。
- ▶ 接続するデバイスによっては、お使いになれないものもあります。

- Serial 2 Address … 「Serial 2」を「Enabled」に設定したときの、I/O ポートアドレスと割り込み要求を設定します。「Serial 2」を「Enabled」に設定した場合に表示されます。
 - ・ 3F8h,IRQ 4、2F8h,IRQ 3、3E8h,IRQ 4、2E8h,IRQ 3

POINT

- ▶ 「Serial 1 Adress」と同じ I/O ポートアドレスを「Serial 2 Adress」で設定しないでください。

- **Parallel** … パラレルポートの I/O ポートアドレス、割り込み要求を設定します。
 - ・ **Disabled** : パラレルポートを使用禁止にします。
 - ・ **Enabled** : I/O ポートアドレスと割り込み要求を設定することによって、パラレルポートを使用可能にします。
 - ・ **Auto** : BIOS または OS が自動的に I/O ポートアドレスと割り込み要求を設定します。
 - ・ **OS Controlled** : OS が自動的に I/O ポートアドレスと割り込み要求を設定します。

POINT

- ▶ 「Auto」に設定すると、接続するプリンタによっては、正常に動作しない、またはプリンタを自動的に認識しない場合があります。この場合、「Enabled」に設定してください。
- ▶ Windows XP/2000/Me/98 でパラレルポートを使用不可にする場合は、Windows のデバイスマネージャで使用不可にしてください。

- **Parallel Mode** … パラレルポートの動作モードを設定します。
 - ・ **Printer** : 出力専用モードに設定します。本設定を選択した場合は、プリンタのみ接続可能です。
 - ・ **Bidirection** : 双方向モードに設定します。双方向モード対応の周辺装置を接続するときに選択します。
 - ・ **EPP** : EPP モードに設定します。EPP 規格の周辺装置を接続するときに選択します。
 - ・ **ECP** : ECP モードに設定します。ECP 規格の周辺装置を接続するときに選択します。
- **Parallel Address** … 「Parallel」を「Enabled」に設定したときの、I/O ポートアドレスと割り込み要求を設定します。「Parallel」を「Enabled」に設定した場合に表示されます。
 - ・ **378h,IRQ 7、278h,IRQ 5、3BCh,IRQ 7**

POINT

- ▶ 「Parallel Mode」を「EPP」または「ECP」に設定した場合、「3BCh,IRQ7」は表示されません。

- **DMA Channel** … ECP 規格の周辺装置を接続する場合に使用する DMA チャンネルを設定します。「Parallel」を「Enabled」および「Parallel Mode」を「ECP」に設定した場合に表示されます。
 - ・ **DMA 1、DMA 3**
- **Diskette Controller** … フロッピーディスクコントローラを使用するかどうかを設定します。
 - ・ **Disabled** : フロッピーディスクコントローラを使用禁止にします。
 - ・ **Enabled** : フロッピーディスクコントローラを使用可能にします。
- **Hard Disk Controller** … ハードディスクコントローラを使用するかどうかを設定します。
 - ・ **Disabled** : ハードディスクコントローラを使用禁止にします。本設定を選択した場合は、IDE インターフェースを使用できません。
 - ・ **Primary** : プライマリ IDE インターフェースを使用可能にします。本設定を選択した場合は、セカンダリ IDE インターフェースに接続されているデバイスを使用できません。
 - ・ **Primary And Secondary** : プライマリとセカンダリ IDE インターフェースを使用可能にします。
- **Mouse Controller** … PS/2 マウスコントローラを使用するかどうかを設定します。
 - ・ **Disabled** : PS/2 マウスコントローラを使用禁止にします。
 - ・ **Enabled** : PS/2 マウスコントローラを使用可能にします。
 - ・ **Auto Detect** : PS/2 マウスが接続されている場合に、PS/2 マウスコントローラを使用可能にします。
- **LAN Controller** … 内蔵の LAN コントローラを使用するかどうかを設定します。
 - ・ **Disabled** : LAN コントローラを使用禁止にします。
 - ・ **Enabled** : LAN コントローラを使用可能にします。

- LAN Remote Boot … ネットワークサーバーから起動する機能（PXE：Pre-boot Execution Environment）を使用するかどうかを設定します。LAN Controller を「Enabled」に設定した場合に表示されます。
 - ・ Disabled（初期値：Windows 2000/NT/Me/98 モデル）：この機能を使用禁止にします。
 - ・ PXE（初期値：Windows XP モデル）：この機能を使用可能にします。本設定を選択した場合は、「Boot Sequence」に「BootManage PXE, PXE-2.0」が追加されます。

POINT

- ▶ ネットワークサーバーから起動するためには、『Wired for Management Baseline Version 2.0』に準拠したインストレーションサーバーシステムが必要となります。

- AC'97 Audio … 内蔵のサウンドデバイスを使用するかどうかを設定します。
 - ・ **Auto**：サウンドデバイスを使用可能にします。ただし、PCI のサウンドカードを増設した場合、内蔵のサウンドデバイスは使用できません。
 - ・ Disabled：サウンドデバイスを使用禁止にします。

□ PCI Configuration

サブメニューを使って、PCI 割り込みに関する設定を行います。

カーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

- PCI IRQ Line 1 ～ 8 … PCI 割り込み信号（INTA# ～ INT#）に割り当てる割り込み要求を設定します。
 - ・ Disabled：割り当てません。
 - ・ **Auto**：自動的に割り当てます。
 - ・ IRQ 3、IRQ 4、IRQ 5、IRQ 6、IRQ 7、IRQ 9、IRQ 10、IRQ 11、IRQ 12、IRQ 14、IRQ 15：選択した割り込み要求に設定します。

POINT

- ▶ 通常は「Auto」に設定してください。
- ▶ IRQ 3、IRQ 4 を選択する場合は、シリアルポート 1/2（Serial 1/2）で同じ割り込み要求を使っていないことを確認してください。
- ▶ IRQ 5、IRQ 7 を選択する場合は、パラレルポート（Parallel）で同じ割り込み要求を使っていないことを確認してください。
- ▶ IRQ 6 は内蔵のフロッピーディスクコントローラ（Diskette Controller）を使用しない場合に設定できます。
- ▶ PCI デバイスが割り込み信号（INTA# ～ INT#）を使用している場合、「Disabled」に設定できません。本パソコンでは以下のとおりに割り込み信号を使用しています。
 - INTA#：
 - INTB#：PCI スロット 1、内蔵 Audio コントローラ、内蔵 SMBus コントローラ
 - INTC#：PCI スロット 2
 - INTD#：PCI スロット 3、内蔵 USB コントローラ 1
 - INTE#：内蔵 LAN コントローラ、PCI スロット 4
 - INTF#：PCI スロット 5
 - INTG#：
 - INTH#：内蔵 USB コントローラ 2

□ Advanced System Configuration

サブメニューを使って、システムの詳細について設定を行います。

カーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

- PCI Bus Parity Checking …PCI バスのパリティエラーを検出するかどうかを設定します。
 - ・ **Disabled** : 検出しません。
 - ・ **Enabled** : 検出します。

POINT

- ▶ PCI バスのパリティエラーを検出すると、システムは停止します。システムを再開させるには、電源ボタンを 4 秒以上押し続けて強制的に電源を切り、10 秒以上待って電源を入れるか、またはリセットボタンを押して強制的に再起動させる必要があります。強制的にシステムを終了させると、OS 上での作業内容は保存されませんので、ご注意ください。

- ECC Memory Checking …メモリの ECC チェックを行うかどうかを設定します。
 - ・ **Disabled** : チェックしません。
 - ・ **Enabled** : チェックします。
- Graphics Aperture … AGP ディスプレイが使用するメモリのサイズを設定します。
 - ・ 32MB、64MB、128MB、256MB
- USB Host Controller … USB コントローラを使用するかどうかを設定します。
 - ・ **Disabled** : USB コントローラを使用禁止にします。
 - ・ **Enabled** : USB コントローラを使用可能にします。
- USB Legacy Support … USB 未対応の OS (Windows NT など) で USB キーボード、マウスを使えるようにするかどうかを設定します。
 - ・ **Disabled** : USB 未対応の OS では、USB キーボード、マウスをしません。
 - ・ **Enabled** : USB 未対応の OS で、USB キーボード、マウスを使います。

POINT

- ▶ Windows NT など USB をサポートしていない OS で USB キーボード、マウスを使うと、本パソコンの性能を十分に発揮できない場合があります。この場合、PS/2 キーボードをお使いになり、「USB Legacy Support」を「Disabled」に設定してください。

- BIOS Work space Location … BIOS が使用するデータ領域をメモリ上のどの位置に配置するかを設定します。データ領域には「USB Legacy Support」を「Enabled」に設定した際に使われる USB データ領域も含まれます。
 - ・ **Expansion ROM Area** : 拡張 ROM 領域に配置します。
 - ・ **Top of Base Memory** : 640KB の基本メモリ領域の上位に配置します。

POINT

- ▶ 「Expansion ROM Area」に設定すると、増設している拡張カードの種類や数によっては、POST 時にエラーが発生する場合があります。この場合、「Top of Base Memory」に設定してください。
- ▶ 「Top of Base Memory」に設定すると、Windows 98 で作成した起動フロッピーディスクが正常に起動しない場合があります。Windows 98 の起動フロッピーディスクを使用する場合は、「Expansion ROM Area」に設定してください。なお、起動時に「Expansion ROM not initialized」のエラーメッセージが表示された場合は、【F1】キーを押し、フロッピーディスクからの起動を開始してください。

□ Power On/Off

サブメニューを使って、電源オン/オフに関する設定を行います。
カーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

- **Power Off Source - Software** … ソフトウェアによって電源を切るかどうかを設定します。
 - ・ **Disabled** : 電源を切りません。
 - ・ **Enabled** : 電源を切ります。

POINT

▶ ACPI 機能が有効な場合（Windows XP/2000/Me/98 モデル）では、本設定は無効です。

- **Power Off Source - Power Button** … 電源ボタンによって電源を切るかどうかを設定します。
 - ・ **Disabled** : 電源を切りません。
 - ・ **Enabled** : 電源を切ります。

POINT

▶ ACPI 機能が有効な場合（Windows XP/2000/Me/98 モデル）では、本設定は無効です。

- **Power On Source** … 電源オンに関する設定を行います。
 - ・ **Bios Controlled** : BIOS の設定によって、電源を入れるかどうかを設定します。「Power On Source-Remote」、「Power On Source-LAN」、「Power On Source-Timer」の設定が有効になります。
 - ・ **ACPI Controlled** : ACPI OS（Windows 2000）の設定によって、電源を入れるかどうかを設定します。「Power On Source-Remote」、「Power On Source-LAN」、「Power On Source-Timer」の設定は無効になります。
- **Power On Source - Remote** … モデム（シリアルポートに接続）にリング信号が着信したときに、電源を入れるかどうかを設定します。
 - ・ **Disabled** : 電源を入れません。
 - ・ **Enabled** : 電源を入れます。

POINT

▶ 電話回線の状況によっては、正常に動作しない場合があります。
▶ 「Enabled」に設定した場合、外付けモデムの電源を入れると、モデムによってはパソコン本体の電源が入ることがあります。
▶ 本パソコンに電源ケーブルを接続した直後や、システムが停止したなどの理由で電源スイッチを4秒以上押して電源を切断した後は、本機能をお使いになれません。

- **Power On Source - LAN** … 内蔵またはオプションのLANコントローラがウェイクアップパケットを受信したときに電源を入れるかどうかを設定します。
 - ・ **Disabled** : 電源を入れません。
 - ・ **Enabled** : 電源を入れます。
- **Power On Source - Timer** … 本パソコンでは、お使いになれません。「Disabled」のままお使いください。
 - ・ **Disabled** : 本機能を無効にします。

- **Power Failure Recovery** … 停電などからの復電時に、パソコン本体の電源を自動的に入れるかどうかを設定します。
 - ・ **Always OFF** : 復電しても電源を投入しません。
 - ・ **Always ON** : 復電したときに電源を投入します。
 - ・ **Previous State** : AC 電源が切れる前の状態にします。
 - ・ **Disabled** : この機能を使用しません。

POINT

- ▶ 「Always OFF」に設定した場合、または「Previous State」に設定し、AC 電源が切れる前の状態がシャットダウンや休止状態の場合、復電の際に一瞬電源が入りますが、故障ではありません。この現象を回避する場合は「Disabled」に設定してください。
- ▶ 「Always ON」または「Always OFF」に設定した場合、AC 電源切断後 10 秒以上待ってから電源を入れてください。10 秒以内に入れると正常に動作しなくなります。
- ▶ 「Previous State」に設定した場合、AC 電源が切れる前の状態が起動中またはスタンバイ状態のときに、パソコン本体の電源が入ります。休止状態のときには、電源は入りません。
- ▶ UPS 等の外部から電源制御を行う場合は、本項目を設定してください。

□ System Management

システムマネジメントに関する設定を行います。

- **Fan Control** … CPU ファンの制御方法について設定します。
 - ・ **Enhanced Cooling** : ファンの回転数および CPU 性能を最大にします。
 - ・ **Auto** : CPU 性能を最大にするように、ファンの回転数を最適化します。
 - ・ **Silent** : ファンの回転数を落とし、ファンノイズを最小限にします。CPU 性能は低下します。
- **SM Error Halt** … システムマネジメントエラーまたはシステム構成変更が発生した場合に、POST 処理を停止するかどうかを設定します。
 - ・ **Disabled** : エラーメッセージを表示し、POST 処理を中断しません。
 - ・ **Enabled** : POST 処理を中断します。
- **Fan State** … 本パソコンが搭載しているファンの状態を表示します。
- **Temp** … 本パソコン内部の温度状態を表示します。
- **Battery State** … 内蔵バッテリーの状態を表示します。

□ Reset Configuration Data

システムのリソースが記録されている ESCD (Extended System Configuration Data) の初期化をするかどうかを設定します。

- ・ **No** : ESCD を初期化しません。
- ・ **Yes** : 再起動時に ESCD を初期化します。

POINT

- ▶ Yes に設定して再起動時に ESCD の内容を初期化すると、自動的に設定が No に変更されません。

□ Lock Setup Configuration

OS のプラグアンドプレイ機能によって、各デバイスの設定が変更されないように保護するかどうかを設定します。

- ・ **No** : 保護しません。
- ・ **Yes** : 保護します。

□ Large Disk Access Mode

大容量ハードディスクへのアクセス方法について設定します。

- **Other** : 大容量ハードディスクを CHS 方式でアクセスします。
- **DQS** : 大容量ハードディスクを LBA 方式でアクセスします。

□ ATAPI UDMA Auto Detect

ATAPI 規格ドライブ（例えば、CD-ROM ドライブ）の転送モードを Ultra DMA モードに設定するかどうかを設定します。

- **Disabled** : ドライブがサポートしている Ultra DMA 以外の最速なモード（例えば、マルチワード DMA）に設定します。
- **Standard** : ドライブが Ultra DMA モードをサポートしている場合に Ultra DMA モードに設定します。Ultra DMA モードをサポートしていない場合は、サポートしている最速なモードに設定します。

Security メニュー

Security メニューでは、特定の人だけが本パソコンを操作できるようにパスワードを設定します。

■ 設定項目の詳細

□ Setup Password

BIOS セットアップのセキュリティに使用するパスワード（セットアップパスワード）の設定状況を表示します。

- **Not Installed** : パスワードは設定されていません。
- **Installed** : パスワードが設定されています。

□ System Password

システム起動時のセキュリティに使用するパスワード（システムパスワード）の設定状況を表示します。

- **Not Installed** : パスワードは設定されていません。
- **Installed** : パスワードが設定されています。

□ Set Setup Password

【Enter】 キーを押して、セットアップパスワードを設定します。セットアップパスワードを設定すると、BIOS セットアップ時にパスワード入力を要求されます。

POINT

- ▶ パスワード入力時に、誤ったパスワードを3回入力すると、「System Disabled」と表示され、ビーブ音が鳴り、本パソコンはキーボードからの入力に反応しなくなります。この場合、本パソコンの電源スイッチを4秒以上押し続けて電源を切り、10秒以上待ってから電源を入れ、正しいパスワードを入力してください。
- ▶ セットアップパスワードを忘れると、BIOS セットアップに入ることができなくなります。この場合、修理が必要となりますので、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

□ Setup Password Lock

セットアップパスワードが設定されている場合に有効です。拡張カードの初期化中に、キーボードをロックできます。起動時にセットアップを実行できる拡張カード（SCSI カードなど）を実装している場合、キーボードをロックすることで、拡張カードの設定を保護できます。

- **Standard** : キーボードをロックしません。
- **Extended** : キーボードをロックします。

□ Set System Password

【Enter】キーを押して、システムパスワードを設定します。

システムパスワードは、セットアップパスワードを設定した場合に、設定可能になります。システムパスワードを設定すると、本パソコンの起動時にパスワード入力を要求されます。

POINT

- ▶ パスワード入力時に、誤ったパスワードを3回入力すると、「System Disabled」と表示され、ブープ音が鳴り、本パソコンはキーボードからの入力に反応しなくなります。この場合、本パソコンの電源スイッチを4秒以上押し続けて電源を切り、10秒以上待ってから電源を入れ、正しいパスワードを入力してください。

□ System Password Mode

システム起動時のセキュリティの種類について設定します。

- **System** : システム全体にセキュリティを掛けます。本パソコンの起動時にパスワードの入力画面が表示され、パスワードを入力するとセキュリティが解除されます。
- **Keyboard** : キーボードセキュリティを掛けます。システムは起動しますが、本パソコンの起動時にキーボードがロックされ、キーボード/マウス操作を防止します。キーボードからパスワードを入力して【Enter】キーを押すと、セキュリティが解除されます。

POINT

- ▶ USB キーボード/マウスをお使いになる場合、本機能は使えません。
- ▶ OS が起動されているのに、キーボード上のインジケータが交互に点灯している場合は、パスワード入力を要求されている状態です。パスワードを入力し、【Enter】キーを押してください。
なお、パスワード入力のダイアログボックスは表示されません。

□ System Load

フロッピーディスク、ATAPI CD-ROM ドライブからの起動を禁止するかどうかを設定します。

- **Standard** : 禁止しません。
- **Diskette/CDROM Lock** : 禁止します。

□ Setup Prompt

本パソコンの起動時に、画面下に「<F2> BIOS Setup / <F12> Boot Menu」と表示するかどうかを設定します。

- **Disabled** : 表示しません。
- **Enabled** : 表示します。

□ Virus Warning

本パソコンの起動時に、ハードディスクのマスタブートレコードがウイルスに感染されているかどうかを確認します。

- **Disabled** : 確認しません。
- **Enabled** : 確認します。ハードディスクのマスタブートレコードのサイズが、前回起動時と異なる場合、エラーを表示します。
- **Confirm** : エラーが表示された場合、本設定を選択することによって、次回起動時から、エラーが表示されなくなります。再起動後は、自動的に「Enabled」の設定になります。

□ Diskette Write

フロッピーディスクへの書き込みを可能にするかどうかを設定します。

- **Disabled** : 書き込みを禁止します。
- **Enabled** : 書き込みを可能にします。

□ Flash Write

BIOS フラッシュメモリへの書き込みを可能にするかどうかを設定します。

- **Disabled** : 書き込みを禁止します。
- **Enabled** : 書き込みを可能にします。

□ SmartCard SystemLock

スマートカードを使ったシステムロック・セキュリティ機能について設定します。

本機能を使用するためには、スマートカードリーダー（カスタムメイドオプション）および富士通製スマートカードが必要です。本機能の使用方法については、スマートカードリーダー（カスタムメイドオプション）に添付のマニュアルを参照ください。

- **Disabled** : システムロック・セキュリティ機能を使用しません。
- **Enabled** : システムロック・セキュリティ機能を使用します。

□ SmartCard and PIN

本設定は、SmartCard SystemLock を有効（Enable）に設定した場合に表示されます。

Wake On LAN によって電源投入した場合に、スマートカードによるセキュリティを省略するかどうかを設定します。

- **Always required** : 常にセキュリティは有効です。
- **Ignore on WOL** : Wake On LAN によって電源投入された場合は、スマートカードによるセキュリティは省略されます。

□ Unblock Own SmartCard

本設定は、SmartCard SystemLock を有効（Enable）に設定した場合に表示されます。

システムロック・セキュリティでは、ユーザーが PIN（ユーザー用認証番号）を忘れてしまい、間違った PIN を 3 回入力すると、そのカードは使用禁止（ブロック）になります。

本設定は、ユーザーのスマートカードでも使用禁止を解除できるようにするかどうかを設定します。

- **Disabled** : ユーザー用スマートカードの使用禁止を解除するためには、管理者用のスマートカードが必要です。
- **Enabled** : ユーザー用のスマートカードでも、PUK（管理用認証番号）を入力すれば使用禁止を解除できます。

□ Cabinet Monitoring

筐体セキュリティを使用するかどうかを設定します。

- **Disabled** : 使用しません。
- **Enabled** : 使用します。セットアップパスワードが設定されている場合、カバーが取り外されているのを検出すると、システム起動時に BIOS セットアップが起動し、パスワードを要求されます。

□ Hard Disk Security

サブメニューを使って、ハードディスクセキュリティ機能に関する設定を行います。カーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

- **Hard Disk Security** … ハードディスクセキュリティ機能を使用するかどうかを設定します。
 - ・ **Disabled** : 使用しません。
 - ・ **Enabled** : 使用します。
- **HDD 1/2/3/4 Security State** … 接続されているハードディスクのセキュリティ状況を表示します。なお、標準搭載のハードディスクは、ハードディスクセキュリティに対応しています。
 - ・ **Not supported** : ハードディスク接続されていないか、接続されているハードディスクがセキュリティに対応していないことを示します。本表示になっている場合、**Set HDD 1/2/3/4 Password** によってハードディスクパスワードを設定できません。
 - ・ **Not Installed** : 接続されているハードディスクがセキュリティに対応していて、ハードディスクパスワードが設定されていないことを示します。本表示になっている場合、**Set HDD 1/2/3/4 Password** によってパスワードを設定できます。
 - ・ **Installed** : ハードディスクにパスワードが設定されていることを示します。**Set HDD 1/2/3/4 Password** でハードディスクパスワードを設定した場合に表示されます。
 - ・ **Lock** : ハードディスクがパスワードによってロックされていることを示します。本表示になっている場合は、ハードディスクパスワードを変更できます。
 - ・ **Frozen** : ハードディスクがフリーズ状態であることを示します。一定回数以上誤ったパスワードを入力すると本状態になります。この場合、修理が必要となりますので、弊社「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にお問い合わせください。なお、保証期間にかかわらず修理は有償となります。
- **Set HDD 1/2/3/4 Password** … 【Enter】キーを押して、ハードディスクパスワードを設定します。ハードディスクパスワードを設定すると、システム起動時にパスワード入力を要求されます。パスワードを入力すると、ハードディスクのセキュリティが無効になり、ハードディスクが使用可能になります。

POINT

- ▶ System Password と同じパスワードが設定されている場合は、ハードディスクパスワード入力は要求されません。また、ハードディスクパスワードと System Password が異なる場合は、先に System Password 入力が要求されます。
- ▶ ハードディスクパスワード入力時に、誤ったパスワードを入力すると、「Invalid Password」と表示され、誤ったパスワードを3回入力すると、「HDD 1/2/3/4 User Password」と表示されます。次に Master Password の入力を要求されますが、Master Password はご使用になれません。この場合は、【Enter】キーを押してください。他のハードディスクパスワードの入力画面に移行します。他に無い場合はシステムが起動します。
- ▶ ハードディスクパスワードを入力しなかったハードディスクはセキュリティ機能が有効になり、次回パスワードを入力するまで使用できなくなります。
- ▶ ハードディスクパスワードを設定し、セキュリティ機能が有効になっているハードディスクは、本装置以外の装置ではご使用になれません。

重要

- ▶ ハードディスクパスワードを忘れると、ハードディスクが使えなくなったり、ハードディスクセキュリティ機能を無効にすることができなくなります。この場合、修理が必要となりますので、弊社「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にお問い合わせください。なお、保証期間にかかわらず修理は有償となります。

Power メニュー

Power メニューでは、省電力モードに関する設定を行います。

省電力モードは、本パソコンの電源を入れた状態で一定時間使わなかった場合に、消費する電力を減らして待機する機能です。

■ 設定項目の設定

□ APM

BIOS の APM 機能を使用するかどうか設定します。

- **Disabled** : BIOS の APM 機能を無効にします。APM 機能を使ったスタンバイや電源切断はできません。
- **Enabled** : BIOS の APM 機能を有効にします。APM 機能を使ったスタンバイや電源切断ができます。

POINT

- ▶ Windows NT モデルの場合、「Enabled」に設定してください。「Disabled」に設定すると、自動的に電源切断ができなくなります。

□ Power Management Mode

BIOS による省電力管理について設定します。

- **Disabled** (初期値 : Windows XP/2000/Me/98 モデル) : BIOS による省電力管理を行いません。
- **Customized** (初期値 : Windows NT モデル) : BIOS による省電力管理を個別に設定できます。「Standby Timeout」、「Suspend Timeout」、「Hard Disk Timeout」の各項目を設定することによって、省電力モードへの移行を可能にします。
- **Maximum Power Savings** : 省電力モードへの移行を可能にし、消費電力を最小限に抑えるように設定します。
- **Maximum Performance** : 省電力モードへの移行を可能にし、性能を損なわない範囲で消費電力を抑えるように設定します。

□ Standby Timeout

ディスプレイを省電力モードに移行する時間を設定します。「Power Management Mode」が「Customized」に設定されている場合に設定できます。

- **Disabled** (初期値 : Windows XP/2000/Me/98 モデル) : 省電力モードに移行しません。
- 2 min、5 min、10 min、15 min、**30 min** (初期値 : Windows NT モデル) : 2 分、5 分、10 分、15 分、30 分

POINT

- ▶ OS を ACPI モードでお使いになる場合、本設定は無効になります。
- ▶ この機能を使用するためには、省電力対応のディスプレイが必要です。

□ Suspend Timeout

IDE ハードディスクおよびディスプレイを省電力モードに移行する時間を設定します。「Power Management Mode」が「Customized」に設定されている場合に設定できます。

- ・ **Disabled** : 省電力モードに移行しません。
- ・ 2 min、15 min、30 min、1h、2h : 2 分、15 分、30 分、1 時間、2 時間

POINT

- ▶ OS を ACPI モードでお使いになる場合、本設定は無効です。
- ▶ この機能を使用するためには、省電力対応のハードディスクとディスプレイが必要です。

□ Hard Disk Timeout

ハードディスクを省電力モードに移行し、モータを止めるまでの時間を設定します。「Power Management Mode」が「Customized」に設定されている場合に設定できます。

- ・ **Disabled** (初期値 : Windows XP/2000/Me/98 モデル) : 省電力モードに移行しません。
- ・ 2 min、5 min、10 min、**15 min** (初期値 : Windows NT モデル) : 2 分、5 分、10 分、15 分

POINT

- ▶ OS を ACPI モードでお使いになる場合、本設定は無効です。
- ▶ この機能を使用するためには、省電力対応のハードディスクが必要です (本パソコンに実装しているハードディスクは、省電力対応です)。
- ▶ 省電力モードから通常の状態に復帰するときは、ディスクの回転が安定するまで数秒間かかります。

□ ACPI S3

ACPI 対応の OS で、S3 モード (Suspend to RAM) を使うかどうかを設定します。

- ・ **Disabled** : S3 モードを無効にします。
- ・ **Enabled** : S3 モードを有効にします。

POINT

- ▶ ACPI の S3 モードに対応していないオプションを増設する場合は、「Disabled」に設定してください。

Exit メニュー

Exit メニューはセットアップを終了するときに使います。

■ 設定項目の詳細

□ Save Changes & Exit

設定した内容を CMOS RAM に保存して BIOS セットアップを終了します。【Enter】キーを押すと次のメッセージが表示されるので、「Yes」を選択して【Enter】キーを押してください。

Setup Confirmation	
Save configuration changes and exit now?	
[Yes]	[No]

□ Discard Changes & Exit

設定した内容を CMOS RAM に保存しないで BIOS セットアップを終了します。【Enter】キーを押すと次のメッセージが表示されるので、「No」を選択して【Enter】キーを押してください。「Yes」を選択した場合は、CMOS RAM に保存して BIOS セットアップを終了します。なお、設定を変更していない場合、次のメッセージは表示されません。

Setup Warning	
Configuration has not been saved! Save before exiting?	
[Yes]	[No]

□ Get Default Values

すべての項目を標準設定値にします。【Enter】キーを押すと次のメッセージが表示されるので、「Yes」を選択して【Enter】キーを押してください。

出荷時の初期設定に戻すには、「ご購入時の設定に戻す」(→『取扱説明書』)をご覧ください。

Setup Confirmation	
Load default configuration now?	
[Yes]	[No]

□ Load Previous Values

すべての項目について、CMOS RAM から変更前の値を読み込み、変更を取り消します。**【Enter】** キーを押すと次のメッセージが表示されるので、「Yes」を選択して **【Enter】** キーを押してください。

Setup Confirmation	
Load previous configuration now?	
[Yes]	[No]

□ Save Changes

設定した内容を CMOS RAM に保存します。**【Enter】** キーを押すと次のメッセージが表示されるので、「Yes」を選択して **【Enter】** キーを押してください。

Setup Confirmation	
Save configuration changes now?	
[Yes]	[No]

System Information メニュー

System Information メニューでは、BIOS のバージョン、CPU の種類などシステム情報が表示されます。

BIOS セットアップ画面で、【F1】 キーを押すと表示されます。

なお、本書では主なシステム情報のみ記載しています。

■ 設定項目の詳細

BIOS Release

BIOS のバージョンが表示されます。

BIOS Date

BIOS の日付が表示されます。

System ROM

BIOS が使う領域のアドレスを表示します。

CPU Type

搭載されている CPU の種類が表示されます。

CPU Speed

搭載されている CPU とシステムバスの速度が表示されます。

CPU Cache

搭載されている CPU の L1 キャッシュ情報および L2 キャッシュ情報が表示されます。本パソコンのキャッシュ情報は以下のとおりです。

L1 キャッシュ情報：20K

 L1 実行トレースキャッシュ：12K マイクロ・オペレーション

 L1 データキャッシュ : 8KB

L2 キャッシュ情報：256K

 改良型 L2 キャッシュ：256KB

COM Ports

シリアルポートに割り当てられている I/O ポートアドレスが表示されます。

LPT Ports

パラレルポートに割り当てられている I/O ポートアドレスが表示されます。

LAN Address

内蔵 LAN コントローラの MAC アドレスが表示されます。また、Alert On LAN 機能を利用するためのソフトウェアをインストールした場合には、MAC アドレスの後ろに aol の文字が表示されます。

□ System Log 1-3:aabb.MMDDYY.hhmm

BIOS イベントログが表示されます。

aa … イベント種別を示します。

bb … イベント詳細を示します。

MMDDYY … イベントが発生した年月日を月/日/年の順で表示します。

hhmm … イベントが発生した時刻を時/分で表示します。

POINT

▶ BIOS イベントログが記録された場合は、以下の表に記載された処置を行ってください。

イベント種別 (aa)		イベント詳細 (bb)	
01	POST エラー	00	IDE ドライブ 1 のディスク診断エラー
		01	IDE ドライブ 2 のディスク診断エラー
		02	IDE ドライブ 3 のディスク診断エラー
		03	IDE ドライブ 4 のディスク診断エラー
		10	キーボードバッファエラー
		11	キーボード診断エラー
		12	キーボードコントローラー診断エラー
		30	システム RAM 診断エラー
		31	Shadow RAM 診断エラー
		32	拡張 RAM 診断エラー
		34	Single-bit ECC エラー
		35	Multi-bit ECC エラー
		50	バッテリーエラー
		51	CMOS チェックサムエラー
		52	パスワードチェックサムエラー
		60	システムタイマ診断エラー
		70	RTC 診断エラー
		71	日付・時刻設定エラー
		80	前回起動エラー
		8F	CPU タイプエラー
		B0	フロッピードライブ A 診断エラー
		B2	フロッピードライブ A タイプエラー
		D0	キャッシュ診断エラー
		F5	DMA 診断エラー
		F6	ソフトウェア NMI エラー
		FA	システムマネージメント構成変更エラー
		エラー発生時の対処方法に関しては、「メッセージ一覧」(→ P.101)をご覧ください。	
02	Single-bit ECC エラー	00	DIMM1 メモリの Single-bit ECC エラー
		01	DIMM2 メモリの Single-bit ECC エラー
		02	DIMM3 メモリの Single-bit ECC エラー
		FF	メモリスロットが特定できない Single-bit ECC エラー
いったん電源を切って、10 秒以上待ってから電源を入れ直してください。それでも発生するようでしたら、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。			

イベント種別 (aa)		イベント詳細 (bb)	
03	Multi-bit ECC エラー	00	DIMM1 メモリの Multi-bit ECC エラー
		01	DIMM2 メモリの Multi-bit ECC エラー
		02	DIMM3 メモリの Multi-bit ECC エラー
		FF	メモリスロットが特定できない Multi-bit ECC エラー
		いったん電源を切って、10 秒以上待ってから電源を入れ直してください。それでも発生するようでしたら、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。	
04	PCI エラー	00	オンボード PCI デバイスエラー
		01	PCI スロット 1 エラー
		02	PCI スロット 2 エラー
		03	PCI スロット 3 エラー
		04	PCI スロット 4 エラー
		05	PCI スロット 5 エラー
		FF	PCI デバイスが特定できない PCI デバイスエラー
オンボード PCI デバイスでエラーが発生している場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。 PCI スロットのエラーが発生している場合は、PCI スロットに増設した PCI カードが正しく接続されているかを確認してください。それでも発生するようでしたら、PCI カードの異常が考えられます。PCI カードのご購入元にお問い合わせください。			
05	AGP エラー	nn	
	AGP カードが正しく接続されているかを確認してください。それでも発生するようでしたら、AGP カードの異常が考えられます。富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。		
07	PCI システムエラー	00	オンボード PCI デバイスのシステムエラー
		01	PCI スロット 1 のシステムエラー
		02	PCI スロット 2 のシステムエラー
		03	PCI スロット 3 のシステムエラー
		04	PCI スロット 4 のシステムエラー
		05	PCI スロット 5 のシステムエラー
オンボード PCI デバイスでエラーが発生している場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。 PCI スロットのエラーが発生している場合は、PCI スロットに増設した PCI カードが正しく接続されているかを確認してください。それでも発生するようでしたら、PCI カードの異常が考えられます。PCI カードのご購入元にお問い合わせください。			
08	PCI パリティエラー	00	オンボード PCI デバイスのパリティエラー
		01	PCI スロット 1 のパリティエラー
		02	PCI スロット 2 のパリティエラー
		03	PCI スロット 3 のパリティエラー
		04	PCI スロット 4 のパリティエラー
		05	PCI スロット 5 のパリティエラー
オンボード PCI デバイスでエラーが発生している場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。 PCI スロットのエラーが発生している場合は、PCI スロットに増設した PCI カードが正しく接続されているかを確認してください。それでも発生するようでしたら、PCI カードの異常が考えられます。PCI カードのご購入元にお問い合わせください。			

4 BIOS のパスワード機能を使う

本パソコンのデータを守るためのパスワード機能を説明します。

本パソコンは、他人による不正使用を防止するために、パスワードを設定できます。パスワードを設定すると、正しいパスワードを知っている人以外は本パソコンを使えなくなります。

パスワードの種類

本パソコンで設定できるパスワードは次の3つです。

入力するパスワードにより、本パソコン操作の権限が区別されます。

- **Setup Password (セットアップパスワード)**
特定の人だけが、BIOS セットアップを行えるようにするためのパスワードです。設定したパスワードを入力しないと、BIOS セットアップが起動できないようにします。
- **System Password (システムパスワード)**
特定の人だけが、本パソコンを使えるようにするためのパスワードです。設定したパスワードを入力しないと、OS が起動できないようにします。システムパスワードを設定するには、先にセットアップパスワードを設定しておく必要があります。
セットアップパスワードで、BIOS セットアップを起動した場合、次の設定が変更できます。
 - ・ System Password
 - ・ HDD Password
- **HDD Password (ハードディスクパスワード)**
特定の人だけが、ハードディスクを使えるようにするためのパスワードです。設定したパスワードを入力しないと、ハードディスクにインストールされた OS の起動や、ファイルの読み書きができないようにします。
IDE-RAID モデルの標準搭載ディスクについては、ハードディスクパスワード機能はお使いになれません。

パスワードを忘れると

- セットアップパスワードを忘れると、BIOS セットアップのほとんどの項目が変更できなくなります。この場合、修理が必要となりますので、弊社「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にお問い合わせください。
なお、保証期間にかかわらず修理は有償となります。
- システムパスワードを忘れると、システムの起動ができなくなります。この場合、修理が必要となりますので、弊社「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にお問い合わせください。なお、保証期間にかかわらず修理は有償となります。
- ハードディスクパスワードを忘れると、ハードディスクが使えなくなったり、ハードディスクセキュリティ機能を無効にすることができなくなります。この場合、修理が必要となりますので、弊社「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にお問い合わせください。なお、保証期間にかかわらず修理は有償となります。

パスワードを設定する

□ セットアップパスワード、システムパスワードの設定

- 1 「Set Setup Password」、または「Set System Password」にカーソルを合わせて【Enter】キーを押します。

パスワード入力用のウィンドウが表示されます。

Set Setup Password	
Enter New Password	[■■■■■]
Confirm New Password	[■■■■■]

Set System Password:	
Enter New Password	[■■■■■]
Confirm New Password	[■■■■■]

- 2 2～8桁までのパスワードを入力します。

入力できる文字種はアルファベットと数字です。

入力した文字は表示されず、代わりに「■」が表示されます。

POINT

- ▶ テンキーの文字を使用して設定した場合、パスワード入力時にもテンキーから入力する必要があります。
- ▶ パスワードを再設定する場合は、現在のパスワードを入力する項目があります。

- 3 パスワードを入力したら【Enter】キーを押します。

「Confirm New Password」にカーソルが移り、パスワードの再入力を求められます。

- 4 手順2で入力したパスワードを再度入力し、【Enter】キーを押します。

「Setup Notice」と書かれたウィンドウが表示されます。

- 5 【Enter】キーを押し、設定を終了します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「Setup Warning」と書かれたウィンドウが表示されます。【Enter】キーを押して、手順2からやり直してください。

パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押してください。

- 6 「Exit」メニューから「Save Changes & Exit」を実行してBIOSセットアップを終了し、電源を切ります。

□ ハードディスクパスワードの設定

- 1 「Set HDD 1/2/3/4 Password」にカーソルを合わせて【Enter】キーを押します。パスワード入力用のウィンドウが表示されます。

HDD 1/2/3/4	
Enter New Password	[■■■■■]
Confirm New Password	[■■■■■]

- 2 2～8桁までのパスワードを入力します。
入力できる文字種はアルファベットと数字です。
入力した文字は表示されず、代わりに「■」が表示されます。

POINT

- ▶ テンキーの文字を使用して設定した場合、パスワード入力時にもテンキーから入力する必要があります。
- ▶ パスワードを再設定する場合は、現在のパスワードを入力する項目があります。

- 3 パスワードを入力したら【Enter】キーを押します。
「Confirm New Password」にカーソルが移り、パスワードの再入力を求められます。
- 4 手順2で入力したパスワードを再度入力し、【Enter】キーを押し、設定を終了します。
再入力したパスワードが間違っていた場合は、「Setup Warning」と書かれたウィンドウが表示されます。【Enter】キーを押して、手順2からやり直してください。
パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押してください。
- 5 「Exit」メニューから「Save Changes & Exit」を実行してBIOSセットアップを終了し、電源を切ります。

■ パスワード設定後のパソコンの起動

- セットアップパスワードを設定すると、BIOSセットアップを始めるときに、パスワード入力用ウィンドウが表示されます。パスワードを入力し、【Enter】キーを押してください。
- システムパスワードを設定すると、本パソコンの起動時にパスワードの入力用ウィンドウが表示されます。パスワードを入力し、【Enter】キーを押してください。

BIOSセットアップの「Security」－「System Password Mode」を「Keyboard」に設定した場合は、OSは起動しますが、キーボードとマウスにロックがかかり、操作ができない状態になります（キーボードのインジケータが交互に点灯します）。パスワード入力用ウィンドウは表示されませんが、パスワードを入力し、【Enter】キーを押すことによって、ロックが解除されます。

Enter Password

POINT

- ▶ 誤ったパスワードを3回入力すると、「System Disabled」と表示され、ビープ音が鳴り、本パソコンはキーボードからの入力に反応しなくなります。この場合、本パソコンの電源ボタンを4秒以上押し続けて電源を切り、10秒以上待ってから電源を入れ、正しいパスワードを入力してください。
 - ▶ テンキーの文字を使用して設定した場合、パスワード入力時にもテンキーから入力する必要があります。
- ハードディスクパスワードを設定すると、本パソコン起動時にハードディスクパスワードの入力用ウィンドウが表示されます。パスワードを入力し、【Enter】キーを押してください。

HDD 1/2/3/4 Password	
Enter HD Password	[]

POINT

- ▶ システムパスワードと同じパスワードが設定されている場合は、ハードディスクパスワード入力は要求されません。また、ハードディスクパスワードとシステムパスワードが異なる場合は、先にシステムパスワード入力が要求されます。
- ▶ ハードディスクパスワード入力時に、誤ったパスワードを入力すると、「Invalid Password」と表示され、誤ったパスワードを3回入力すると、「HDD 1/2/3/4 User Password」と表示されます。次に Master Password の入力を要求されますが、Master Password はご使用になれません。
この場合は、【Enter】キーを押してください。他のハードディスクパスワードの入力画面に移行します。他に無い場合はシステムが起動します。
- ▶ ハードディスクパスワードを入力しなかったハードディスクはセキュリティ機能が有効になり、次回パスワードを入力するまで使用できなくなります。
- ▶ ハードディスクパスワードを設定し、セキュリティ機能が有効になっているハードディスクは、本装置以外の装置ではご使用になれません。

パスワードを変更／削除する

■ パスワードを変更する

パスワードを変更するには、「Set Setup Password」、「Set System Password」または「Set HDD 1/2/3/4 Password」の項目で、まず現在のパスワードを入力し、その後新しいパスワードを2回入力します。

■ パスワードを削除する

パスワードを削除するには、「Set Setup Password」、「Set System Password」または「Set HDD 1/2/3/4 Password」の項目で、まず現在のパスワードを入力し、その後新しいパスワードを入力しないで【Enter】キーを押します。

セットアップパスワードを削除すると、システムパスワードも削除されます。

5 BIOSが表示するメッセージ一覧

本パソコンが表示するエラーメッセージの対処方法を説明します。必要に応じてお読みください。

メッセージが表示されたときは

「メッセージ一覧」(→ P.101)に記載の処置や次の処置を行ってください。

- BIOS セットアップを実行する
BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示された場合は、BIOS セットアップを再実行してください。
- 周辺機器の取り付けを確認する
拡張カードなどを取り付けているときは、それらが正しく取り付けられているか確認してください。また、カードの割り込みレベルなど正しく設定されているかどうかも確認してください。このとき、拡張カードに添付のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合は、それらのマニュアルもあわせてご覧ください。

処置を実施しても、まだエラーメッセージが発生する場合は、本パソコンが故障している可能性があります。「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

メッセージ一覧

本パソコンが表示するメッセージの一覧は、以下のとおりです。

括弧《》内の英数字《aabb》は、BIOS イベントログ (→ P.95) のイベント種別 aa およびイベント詳細 bb を示します。

- Failure Fixed Disk 《0100/0101/0102/0103》
ハードディスクドライブの設定に誤りがあります。BIOS セットアップの「Main」メニューの「IDE Drive 1/2/3/4」の設定を確認してください。
- Stuck Key nn 《0110》
キーボードのキーが押し続けられています。システム起動時には、キーを押し続けしないでください。
- Keyboard error 《0111》
キーボード診断でエラーが発生しました。キーボードが正しく接続されているか確認してください。
- Keyboard controller error 《0112》
キーボードコントローラ診断でエラーが発生しました。「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- System RAM Failed at offset:nnnn 《0130》
システム RAM 診断でエラーが発生しました。メモリが正しく取り付けられているかを確認してください。

- **Shadow RAM Failed at offset:nnnn 《0131》**
Shadow RAM 診断でエラーが発生しました。メモリが正しく取り付けられているかを確認してください。
- **Extended RAM Failed at address line:nnnn 《0132》**
拡張 RAM 診断でエラーが発生しました。メモリが正しく取り付けられているかを確認してください。
- **Single-bit ECC error occured. 《0134》**
いったん電源を切って、10 秒以上待ってから電源を入れ直してください。それでも発生するようでしたら、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **Multiple-bit ECC error occured. 《0135》**
いったん電源を切って、10 秒以上待ってから電源を入れ直してください。それでも発生するようでしたら、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **System battery is dead - Replace and run SETUP 《0150》**
バッテリーの交換が必要です。「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **System CMOS checksum bad - Default configuration used 《0151》**
BIOS セットアップを起動し、各設定を確認して、再度保存してください。
- **Password checksum bad - Passwords cleared 《0152》**
BIOS セットアップを起動し、「Security」メニューのパスワードを再設定してください。
- **System timer error 《0160》**
「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **Real time clock error 《0170》**
「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **Check date and time settings 《0171》**
BIOS セットアップを起動し、「Main」メニューの「System Time」および「SystemDate」を再設定してください。
- **Previous boot incomplete - Default Configuration used 《0180》**
BIOS セットアップを起動し、各設定を確認して、再度保存してください。
- **Available CPUs do not support the same bus frequency - System halted! 《018F》**
「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **Diskette drive A error 《01B0》**
フロッピーディスクドライブ診断でエラーが発生しました。フロッピーディスクドライブが正しく接続されていることを確認してください。正しく接続されている場合は、BIOS セットアップを起動し、「Main」メニューの「Diskette A:」が正しく設定されているかを確認してください。
- **Incorrect Drive A type - SETUP 《01B2》**
フロッピーディスクドライブの種類の設定に誤りがあります。BIOS セットアップを起動し、「Main」メニューの「Diskette A:」が正しく設定されているかを確認してください。
- **System cache error - Cache disabled 《01D0》**
「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **DMA Test Failed 《01F5》**
「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **Software NMI Failed 《01F6》**
「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

- **System Management Configuration changed or problem occurred 《01FA》**
CPU ファン、電源ファンが壊れていないこと、および本体のサイドカバーが開いていないことを確認してください。
- **Invalid system disk**
Replace the disk, and then press any key
フロッピーディスクドライブにシステム以外のフロッピーディスクをセットしたまま電源を入れる则表示されます。フロッピーディスクを取り出して何かキーを押してください。
- **Operating System not found**
OS が見つかりませんでした。ドライブに OS が入っているかを確認してください。入っている場合は、BIOS セットアップを起動し、OS を起動するドライブが正しく設定されているかを確認してください。
- **Expansion ROM not initialized**
拡張カードの ROM の初期化に失敗しました。メモリ上の ROM 領域が不足している可能性があります。下記の手順で、エラーが解消されない場合は、拡張カードのご購入元にご連絡ください。
【F2】キーを押してBIOSセットアップを起動し、「Advanced」－「Advanced System Configuration」メニューの「BIOS Work space Location」の設定を「Top of Base Memory」に変更してください。「Exit」メニューの「Save Changes & Exit」で BIOS セットアップを終了し、再起動してください。
- **Press <F1> to resume, <F2> to setup**
POST 中にエラーが発生すると OS を起動する前に本メッセージが表示されます。
【F1】 キーを押すと、OS の起動を開始します。**【F2】** キーを押すと、BIOS セットアップを起動し、設定を変更することができます。
- **Intrusion detected-Confirm by password**
本体のサイドカバーが開かれた場合に表示されます。本メッセージが表示されると自動的に BIOS セットアップが起動し、セットアップパスワードの入力が要求されます。セットアップパスワードを入力し、「Exit」メニューの「Save Changes & Exit」を実行してください。
- **System Configuration Data updated**
システム構成が変更された場合に表示されます。本パソコンに不具合が発生したのではありませんので、続けてお使いください。
- **PXE-E61:Media test failure, Check cable**
Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。LAN ケーブルが正しく接続されていません。LAN ケーブルを正しく接続してください。
- **PXE-E51:No DHCP or BOOTP offers received**
Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。起動時に必要な IP アドレスが取得できませんでした。DHCP サーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「Advanced」－「Peripheral Configuration」メニューの「LAN Remote Boot」を「Disabled」に設定してください。
- **PXE-E53:No boot filename received**
Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがクライアントから認識されていない場合に発生するエラーです。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「Advanced」－「Peripheral Configuration」メニューの「LAN Remote Boot」を「Disabled」に設定してください。

- PXE-E78:Could not locate boot server

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがクライアントから認識されていない場合に発生するエラーです。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「Advanced」－「Peripheral Configuration」メニューの「LAN Remote Boot」を「Disabled」に設定してください。

- PXE-T01:File not found PXE-E89:could not download boot image

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバー上のブートイメージファイルが取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「Advanced」－「Peripheral Configuration」メニューの「LAN Remote Boot」を「Disabled」に設定してください。

- PXE-E32:TFTP open timeout

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ネットワークブートに失敗しました。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「Advanced」－「Peripheral Configuration」メニューの「LAN Remote Boot」を「Disabled」に設定してください。

第 5 章

技術情報

5

本パソコンの仕様などを記載しています。

1 仕様一覧	106
2 コネクタ仕様	109

1 仕様一覧

本体仕様

		FMV-7000TX
CPU		Pentium® 4 Processor-2.0GHz Pentium® 4 Processor-1.7GHz Pentium® 4 Processor-1.5GHz
キャッシュメモリ		1次 8KB (データ) 2次 256KB
BIOS ROM		512KB (フラッシュ ROM)
メインメモリ		標準 128MB (168 ピン SDRAM DIMM) 最大 1536MB (ECC 対応)
フロッピーディスク		3.5 インチ×1 (3 モード対応)
ハードディスク※1		標準 40GB (IDE) 標準 80GB×2 (IDE-RAID モデル) ※2
CD-ROM		最大 40 倍速 (平均 28 倍速)・トレイタイプ (ATAPI)
グラフィック		VGA/SVGA 最大 1600×1200 ドット/最大 1677 万色 DDR SDRAM 16MB
サウンド		PCM 録音再生 (サンプリングレート最大 48kHz)
ネットワーク		100BASE-TX/10BASE-T、Alert On LAN/Wake up on LAN 対応
I/F	ディスプレイ	アナログ RGB ミニ D-SUB 15pin
	USB	USB コネクタ×4
	キーボード	PS/2 タイプ Mini-DIN 6pin
	マウス	PS/2 タイプ Mini-DIN 6pin
	シリアルポート	非同期 RS-232C×2 D-SUB 9pin
	パラレルポート	セントロニクス準拠 ECP 対応 D-SUB 25pin
	サウンド	Line-out、Line-in、Mic-in
	LAN	モジュラーコネクタ RJ45
拡張スロット数		6 AGP×1 (ディスプレイカード搭載済) PCI (フル)×3 PCI (ハーフ:176mm)×2 (うち1つに IDE-RAID カード搭載済 (IDE-RAID モデル))
ストレージベイ数		6 前面:フロントアクセスベイ×3 (うち1つに CD-ROM 搭載済) (うち2つに HDD 用フロントアクセスユニット搭載済 (IDE-RAID モデル)) 3.5 インチフロッピーディスクドライブ搭載済 内部:3.5 インチハードディスクベイ×2 (うち1つに搭載済) (未搭載 (IDE-RAID モデル)) スマートカードベイ (カスタムメイドオプション専用)
電源/周波数		AC100V 50/60Hz
消費電力	電源「オフ」状態	5W 以下※3
	動作時	通常約 44W (IDE-RAID モデルは 54W) 最大約 250W 最小約 33W ※4
質量		約 15.0kg (IDE-RAID モデルは約 17.0kg)
外形寸法		210mm×440mm×420mm (W×D×H)
使用環境		温度:10~35℃ 湿度:20~80% (RH)
保存環境		温度:-10~60℃ 湿度:20~90% (RH)

※1: 本書に記載のディスク容量は、1MB=1000²byte、1GB=1000³byte 換算によるものです。1MB=1024²byte、1GB=1024³byte 換算で Windows 上に表示される実際の容量は、本書に記載のディスク容量より少なくなります。

※2: ミラーリングを行っているため、使用できるハードディスクの容量は2台で80GBです。

※3: 電源「オフ」状態のエネルギー消費は、製品の電源プラグをコンセント (AC100V) から抜くことにより回避できます。

※4: ご使用になる機器構成により値は変動します。

POINT

- ▶ 本パソコンの仕様は、改善のため予告なく変更することがあります。あらかじめ、ご了承ください。

LAN アダプタ仕様

LAN コントローラ	Intel 82562EM
送受信バッファ用 RAM	送受信 各 3Kbyte
外部インターフェース	ISO8802-3 100BASE-TX/10BASE-T
伝送媒体	ツイストペアケーブル※ ¹ (100Mbps: カテゴリ 5、10Mbps: カテゴリ 3~5)
伝送方式	ベースバンド
アクセス方式	CSMA/CD
データ転送速度	100Mbps、10Mbps
配線形態	スター型
セグメント最大長	100m
最大ノード数/セグメント	ハブユニット※ ² による

※ 1：ネットワークを 100Mbps で確実に動作させるには、非シールド・ツイスト・ペア (UTP) カテゴリ 5 またはそれ以上のデータ・グレードのケーブルをお使いください。カテゴリ 3 またはカテゴリ 4 のケーブルを使うと、データ紛失が発生します。

※ 2：ハブユニットとは、100BASE-TX/10BASE-T のコンセントレータです。

POINT

- ▶ 本パソコン標準搭載の LAN はネットワークのスピードに自動で対応します。ハブユニットの変更などでネットワークのスピードが変更される場合、スピードに対応した適切なデータグレードのケーブルを必ずお使いください。

サウンド仕様

サウンドコントローラ	Intel 製 82801BA I/O Controller Hub 内蔵 + ANALOG DEVICES 製 AD1885
PCM 録音再生機能	サンプリング周波数 最大 48kHz 16bit Stereo 同時録音再生機能

※：DirectX8.0a 以降に対応しています。

グラフィック仕様

ビデオコントローラ	ATI Technologies 社製 RADEON™ VE
表示モード	最大 1600 × 1200、1677 万色
ビデオ出力信号	ビデオ：アナログ RGB、同期信号：TTL コンパチブル
ビデオメモリ	DDR SDRAM 16MB

※：DirectX8.0a 以降に対応しています。

(カスタムメイドオプションのグラフィックカード選択時)

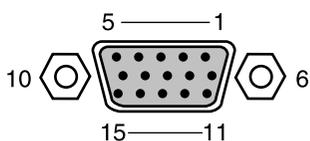
ビデオコントローラ	NVIDIA® 社製 GeForce3™
表示モード	最大 1600 × 1200、1677 万色
ビデオ出力信号	ビデオ：アナログ RGB、同期信号：TTL コンパチブル
ビデオメモリ	DDR SDRAM 64MB

※：DirectX8.0a 以降に対応しています。

2 コネクタ仕様

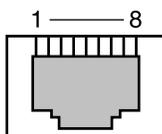
各コネクタのピンの配列および信号名は、次のとおりです。

■ CRT コネクタ



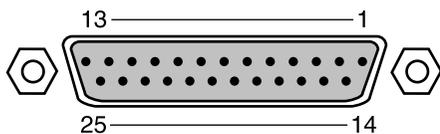
ピン番号	信号名	方向	説明
1	RED	出力	赤出力
2	GREEN	出力	緑出力
3	BLUE	出力	青出力
4	ID2	入出力	未接続
5～8	GND	—	グラウンド
9	VCC	—	電源
10	GND	—	グラウンド
11	ID0	入出力	未接続
12	ID1 (SDA)	入出力	DDC データ
13	HSYNC	出力	水平同期信号
14	VSYNC	出力	垂直同期信号
15	SCL	入出力	DDC クロック

■ LAN コネクタ (100BASE-TX/10BASE-T)



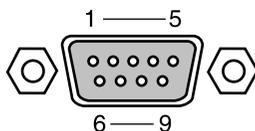
ピン番号	信号名	方向	説明
1	TD+	出力	送信データ+
2	TD-	出力	送信データ-
3	RD+	入力	受信データ+
4	NC	—	未接続
5	NC	—	未接続
6	RD-	入力	受信データ-
7	NC	—	未接続
8	NC	—	未接続

■ パラレルコネクタ



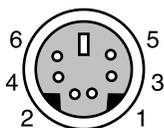
ピン番号	信号名	方向	説明
1	* STROBE	入出力	ストロブ
2	DATA 0	入出力	データ 0
3	DATA 1	入出力	データ 1
4	DATA 2	入出力	データ 2
5	DATA 3	入出力	データ 3
6	DATA 4	入出力	データ 4
7	DATA 5	入出力	データ 5
8	DATA 6	入出力	データ 6
9	DATA 7	入出力	データ 7
10	* ACK	入力	アクノリッジ
11	BUSY	入力	ビジー
12	PE	入力	用紙切れ
13	SELECT	入力	セレクト
14	* AUTOFD	出力	自動送り
15	* ERROR	入力	エラー
16	* INIT	出力	初期化
17	SLCTIN	出力	セレクト
18 ~ 25	GND	—	グラウンド

■ シリアルコネクタ



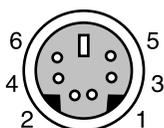
ピン番号	信号名	方向	説明
1	CD	入力	キャリア検出
2	RD	入力	受信データ
3	TD	出力	送信データ
4	DTR	出力	データ端末レディ
5	GND	—	グラウンド
6	DSR	入力	データセットレディ
7	RTS	出力	送信要求
8	CTS	入力	送信可
9	RI	入力	リングインジケート

■ マウスコネクタ



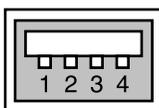
ピン番号	信号名	方向	説明
1	DATA	入出力	データ
2	NC	—	未接続
3	GND	—	グラウンド
4	VCC	—	電源
5	CLK	入出力	クロック
6	NC	—	未接続

■ キーボードコネクタ



ピン番号	信号名	方向	説明
1	DATA	入出力	データ
2	NC	—	未接続
3	GND	—	グラウンド
4	VCC	—	電源
5	CLK	入出力	クロック
6	NC	—	未接続

■ USB コネクタ



ピン番号	信号名	方向	説明
1	VCC	—	ケーブル・電源
2	-DATA	入出力	-データ信号
3	+DATA	入出力	+データ信号
4	GND	—	ケーブル・グラウンド

Memo

索引

記号

100BASE-TX/10BASE-T	109
109 日本語キーボード	26
5 インチフロントアクセスベイ.....	63

A

Advanced メニュー.....	79
--------------------	----

B

BIOS

ーセットアップ	70
ーセットアップの操作のしかた	71

C

CD

ーのお手入れ	34
ーをセットする	29
ーを取り出す	29

CMOS RAM	70
----------------	----

CRT コネクタ	109
----------------	-----

E

Exit メニュー	92
-----------------	----

L

LAN

ーアダプタ仕様	107
ーコネクタ	109

M

Main メニュー	74
-----------------	----

P

Power メニュー.....	90
-----------------	----

S

Security メニュー	86
Set Setup Password	98
Set System Password.....	98
System Information メニュー.....	94

U

USB コネクタ	111
----------------	-----

あ行

アッパーカバーの取り外し	40
エラー状態の直しかた.....	101
お手入れ.....	33

か行

各キーの役割	72
拡張カード	49
ーの取り付け	50
キーボード.....	26
ーコネクタ	111
ーのお手入れ	34
クリック.....	24
コネクタ仕様	109

さ行

サイドカバーの取り外し	40
システムパスワード	97
周辺機器.....	38
仕様	106
シリアルコネクタ	110
スクロール	25
スレーブ.....	54
セキュリティ.....	36
セットアップパスワード	97

た行

ダブルクリック	25
通風孔.....	33
ドラッグ.....	25

な行

内蔵

ーハードディスクベイ	58
ーバッテリー	21

は行

ハードディスク	58
---------------	----

パスワード	70, 97
-の設定方法	98
-を削除する	100
-を変更する	100
パソコン本体のお手入れ	33
パラレルコネクタ	110
フロッピーディスク	30
-ドライブのクリーニング	34
-をセットする	30
-を取り出す	31
フロントパネルの取り外し	40
ポイント	25

ま行

マウス	24
-コネクタ	111
-のお手入れ	33
-の使い方	24
マザーボード	20
マスター	54
メッセージ	70
-一覧	101

FMV-7000TX

ハードウェアガイド
B5FH-3991-01-01

発行日 2001年11月
発行責任 富士通株式会社

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。